

令和5年度

宇治市社会福祉協議会（コラボネット宇治）

事業報告

～支え合い、助け合い、励まし合って、つながる福祉～

社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会
（コラボネット宇治）

目 次

令和5年度のふりかえり	…P1
第1章 「人への共感」「地域への関心」を基盤とした、地域福祉活動・ボランティア 活動の推進	…P2
第2章 各種相談からの生活課題、地域福祉課題の把握と解決	…P46
第3章 法人運営及び財務運営の強化	…P60

令和5年度 ふりかえり

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられたとき、令和2年のアンケート調査の際の「これが終わったら、元通りみんなでやろうと言っている」という言葉が思い出されました。そして、その言葉どおり、イベントの再開、会食会の再開、サロンでの距離を縮めての活動が始まっていきました。どの活動も、待ちに待った活動です。一方で、コロナ禍で活動を見直したことで、より多くの人が気軽に集えるやり方の一つとしての「拠点型配食」を継続しているところや、場所を選ばないオンラインの会議を活用しながらの運営をしているところもあります。5類移行後は、コロナ禍で得た英知を活かし、「元に戻る」ことだけでなく、新たなことも取り入れながら活動を進化させることにつながりました。

しかしながら、活動がいつも通りできなかつた時間が長かつた分、活動者の状況も変化し、参加が難しくなった人もいます。令和5年度は学区福祉委員会や当事者組織の会員数の減少に対して、関心を寄せる人を増やすための取組み、団体支援を重点項目に挙げていました。その中で、社協だよりをはじめとする広報媒体で取り上げたほか、実習生や新人職員を中心に当事者の声を聴く機会を持ったり、学区福祉委員会のPRを行うなども行いました。いずれも顕著な会員増にはつながっていませんが、当事者団体から、当会のSNSへの掲載を希望されるなど、これまでと違うかかわりが生まれてきました。一般介護予防事業介護予防普及啓発事業(Bタイプリハビリ教室)では、利用者、ボランティアへの周知として、ボランティアと一緒にヨガの時間を提供したり、京都フィルハーモニー室内合奏団のご協力での演奏会をするなど、これまでとは異なる取組みにもチャレンジしてきました。






この3年間は、経済状況も含めて大きな変化があり、コロナ禍で浮き彫りになった生活課題が顕著になってきた1年でもありました。貸付を糸口に複合課題も顕在化してきた場合は、当会だけでなく、行政関係部局、とりわけ自立支援機関と密に連携し、生活福祉資金の特例貸付の償還相談をはじめとした生活相談を行ってきました。人や社会と接点が持ちづらいと感じている人たちの社会参加の一助としてボランティア活動へつながっていき、少しずつその人らしさが発揮できる場面が見えるようになったこともありました。

これらのかかわりにおいて、職員が地域住民、相談者のニーズを汲み、専門性を発揮しながら職務に当たっています。その専門性を維持するためには、職員が安定して働ける環境整備が重要です。しかしながら、当事者組織や学区福祉委員会等と同様、職員募集においても困難な状況が生まれています。このことは、社会福祉はもとより社会全体の課題ではありますが、とりわけ当会をはじめとする「福祉」では、人材が最も大事な資本です。市内の社会福祉法人等とも連携し、宇治での福祉活動、福祉事業にかかわる人を増やしていく必要があります。

そして、その人や地域福祉活動を支えるには、財源確保が重要です。当会の基盤である「会員募集」や「共同募金配分金」については、大きく減少しています。収益事業の自動販売機の設置についても、運送にかかるコスト等の値上がりもあり、増設につなげることが難しくなっています。

一方でイベント等の再開もあり寄附金によるご協力をいただく機会も徐々に戻ってきました。寄附者の意向や思いを大切にしながら、地域福祉活動の展開を図り、厳しい状況を打開できるよう努めます。

【アイコン表示について】各活動の財源が分かるアイコンを表示しています。

	会費収入等の独自財源、基金の運用益を元にして実施する事業に表示。		赤い羽根共同募金の配分金で実施する事業に表示。		歳末たすけあい募金の配分金で実施する事業に表示。
	参加者や利用者からの負担金により実施する事業に表示。		宇治市や京都府社協からの委託金や補助金、助成金により実施する事業に表示。		

第1章 「人への共感」「地域への関心」を基盤とした、地域福祉活動・ボランティア活動の推進

様々な生活不安や寂しさを抱えている人を見守り、孤立させない地域づくりを進めるためには、従来の支える側、支えらえる側という形に捉われず、常に地域住民の関心事や不安を抱えている当事者の思いを共有しながら、地域の中での「共感」を高め、多様な住民が参画できる場づくりが必要です。当会として、その共感の場づくりを意識しながら、各種の地域福祉、ボランティア活動への支援に取り組みました。

1. 学区福祉委員会等住民主体による活動への支援



目 標／学区福祉委員会等の住民主体による小地域福祉活動への助言や協働を通じて、それぞれの地域に即した地域福祉の拡充を進めます。

取組み／住民向け企画や研修会の協働を通じた学区福祉委員会等の活動支援

木幡学区での、住民交流拠点の継続開催（～コラボプラザ～「ふらっとこはた」の取組み支援）

学区福祉委員会連絡協議会の運営支援による学区福祉委員会活動の拡充

(1) 学区福祉委員会への支援・協働

地域担当4名で宇治市内20の学区福祉委員会と1地区社会福祉協議会（西小倉学区・北小倉学区・南小倉学区）を担当して、役員会等への参加やコロナ禍での活動のあり方について情報提供を行いました。

5月から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行となり、学区福祉委員会が主催・協力する地域行事が増えてきました。一人暮らし高齢者の顔を合わせた会食活動を再開する学区福祉委員会がある一方、コロナ禍以前に自主調理をして、配食・会食会の活動をしていた学区福祉委員会の中には、事業の担い手確保が難しいことから、自主調理ではなく委託調理に変更したところもありました。方法はそれぞれですが、地域の高齢者の方と福祉委員が顔を合わせられる機会となっています。

また、令和5年度は「地域つながり活動支援事業」を利用して、南部学区福祉推進委員会と、西大久保学区福祉委員会が、学区福祉委員の担い手募集の取組みを行いました。結果、数名が新たに福祉委員に登録をされました。学区福祉委員会活動は、小学校区ごとの住民のつながりにより成り立つ活動です。共働き世帯の増加や定年退職後も働く人が増加している中で、地域の活動に参加できる時間自体が少なくなっている状況にあります。だからこそ、今後も、宇治市全体で学区福祉委員会の活動が活発に行われるよう、活動に関わりたいと思ってもらえる、きっかけづくりの取組みが必要です。また、宇治市内外を問わず、地域の活動に工夫やアイデアを加えて取組まれている内容を、各学区福祉委員会に伝達をして、活動支援を行います。

(役員会・幹事会、活動や協議の場への参加、対応)※主なもののみ記載

月	学区数	対応回数	主な参加、対応
4月	16	17	役員会、幹事会、総会にかかる協議、学区内サロンの見学
5月	13	17	役員会、幹事会 (Zoom 参加あり)、委員長との協議
6月	11	14	幹事会、学区役員との面談
7月	12	14	役員会、幹事会、研修打ち合わせ
8月	6	6	役員会、幹事会、
9月	19	19	役員会、幹事会、住民会費受取、共募資材伝達
10月	12	14	役員会、幹事会、配食活動見学
11月	15	16	役員会、幹事会、歳末募金資材伝達、学区及び地域包括支援センターとの協議
12月	11	11	役員会、幹事会、福祉バザー見学
1月	9	9	役員会、幹事会、学区各種団体懇談会の協議
2月	8	9	役員会、幹事会
3月	14	18	役員会、幹事会、視察研修同行、補助金に関する相談対応

(学区福祉委員委員数一覧)

(単位:名)

学区名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
笠取	43	43	41
笠取第二	52	52	0
御蔵山	41	41	41
宇治	97	95	96
岡屋	54	51	48
南部	80	67	68
三室戸	78	69	65
菟道	70	61	65
菟道第二	117	112	105
神明	87	85	75
大開	50	46	43
大久保	58	47	48
西大久保	55	52	45
平盛	36	33	31
伊勢田	77	66	68
西小倉	12	12	12
北小倉	26	25	25
南小倉	14	14	11
小倉	84	75	71
槇島	75	70	69
北槇島	36	38	37
合計	1,242	1,154	1,064

(学区福祉委員会総会開催状況)

	対面開催	書面報告
令和3年度	10学区	11学区
令和4年度	7学区	14学区
令和5年度	19学区	1学区

(学区福祉委員会が行う小地域福祉活動への各種補助金)

名称	①福祉活動費
目的	地域の特性や事情に応じた活動が展開できるよう、運営面での支援を図る
使 途	学区福祉委員会の運営費、活動費
内 容	学区福祉委員会を通じて、市内の各自治会・町内会に依頼をして、協力いただいた会費の20%を、学区福祉委員会の運営費として交付しました。また、学区福祉委員会を通じて協力のあった事業所会費の40%を運営費として交付しました。

名称	②事業費補助金
目的	地域の特性や事情に応じた、小地域福祉活動の推進を図る
使 途	小学校区ごとに特色のある地域福祉活動を展開するための活動費
内 容	1学区あたり、4事業までの実施で上限175,000円を交付 (A区分3事業150,000円、B区分1事業25,000円)
活動状況 (取組み例)	<ul style="list-style-type: none"> ・各学区福祉委員会による広報紙の発行 ・和太鼓の練習会を通じ、子どもの協調性を育てながら、地域住民と子どもたちとの交流の場づくり ・学区内にある、ふれあいサロン同士の連絡会や交流会の実施 ・一人暮らし高齢者宅を訪問しての近況聞き取りアンケートの実施 ・安心カードを高齢者世帯に配布しながら、日頃からの顔の見える関係づくり ・伝承遊び等を通じた学区内の小学校、幼稚園、保育園児と高齢者の交流活動 ・近隣の福祉施設を訪れ、見学や現状の理解、福祉委員同士の交流活動

名称	③一人暮らし高齢者訪問活動事業補助金
目的	一人暮らし高齢者等の訪問活動を通じて、高齢者の見守りの拡充を図る
使 途	月1回以上の訪問や生活支援時に配布する記念品等に要する費用
内 容	1年を通じて見守り、声かけを行った対象者1人につき年額1,000円を補助
活動状況 (取組み例)	年度当初に見守り対象として把握した一人暮らし高齢者等に対して、学区福祉委員が日常生活の中での見守りや声かけによる安否確認を行っています。記念品については、いくつかの物品を組み合わせお渡しする学区福祉委員会もあり、その場合は、福祉委員が集まり、袋に詰めるなどの作業を行って記念品をお渡しされています。

(学区別一人暮らし高齢者等訪問事業実績)

(単位:名)

学区名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
宇治	194	197	187
岡屋	89	77	91
南部	134	134	135
菟道	161	163	146
菟道第二	147	136	141
神明	204	182	198
大開	108	103	97
大久保	21	20	26
西大久保	87	80	79
伊勢田	124	128	125
小倉	159	172	180
西小倉地区社協	77	57	58
槇島	260	253	256
訪問対象者数	1,765	1,702	1,719

名称	④一人暮らし高齢者等給食サービス事業補助金
目的	一人暮らし高齢者等の給配食活動を通じて、高齢者の社会参加や孤立予防を図る
用途	一人暮らし高齢者等の孤立予防や見守りを兼ねた会食会、配食活動に要する費用
内容	1食あたり350円の補助
活動状況 (取組み例)	<p>年度当初に給食サービス事業対象として把握をした一人暮らし高齢者等に対して、会食会等への参加呼びかけを行いながら、孤立予防や声かけが行われました。</p> <p>5月より新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、会食会を再開される学区福祉委員会も出てきました。一方、コロナ禍で始まった拠点型の配食活動は、より身近な地域での活動であり、一人暮らし高齢者等の参加者が多くなるという分析から、会食会形式に戻さず、拠点型の配食を継続される学区福祉委員会もあります。</p> <p>コロナ禍では、調理室が利用できず、業者に委託したお弁当を手配されていました。しかし、調理室が利用できるようになって、調理を担う活動者が無く、業者への委託を継続して活動する傾向が高まっています。食数実績については、令和元年度7,929食でしたので、コロナ禍以前の食数に近づきつつあります。</p>

(学区別一人暮らし高齢者等給配食サービス事業実績)

(単位:食)

学区名	給配食実績数(食)		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
御蔵山	141	117	126
宇治	1,374	1,387	1,428
岡屋	125	100	35
南部	225	162	180
三室戸	585	534	550
菟道	184	193	184
菟道第二	178	194	145
神明	579	801	779
大開	165	457	391
大久保	233	234	237
平盛	-	-	-
伊勢田	-	85	107
小倉	542	628	1,059
西小倉地区社協	-	750	1,145
槇島	1,101	1,198	1,222
北槇島	51	52	51
合計	5,483	6,892	7,639

名称	⑤歳末たすけあいふれあい事業補助金
目的	一人暮らし高齢者等の年末・年始の激励を通じて、孤立予防を図る 安心、安全な地域づくりのために必要な、住民同士のつながりや交流を図る
使途	年末、年始に行われる高齢者等への見守り活動、住民交流事業に要する費用
内容	対象者一世帯につき年額1,000円(上限150,000円)または、1学区福祉委員会上限130,000円(住民交流事業の場合)
活動状況 (取組み例)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニお節と年賀状配布による年末の声かけ訪問活動 ・ご近所の集会所にて、激励品を配布しながら、受取りに来られた一人暮らし高齢者への年末の声かけ、安否確認。 ・学区内の福祉施設で作られたおせち料理を持参しての声かけ活動 ・小学校での左義長の実施による住民交流活動

(2) 木幡学区内での住民交流拠点づくりと社協出張相談の場づくり

「コラボプラザ ふらっとこはた」の開催

令和4年度に引き続き、木幡学区福祉委員会解散後の取組みとして、木幡地域の“いま”や“思い”を語り合い、「こんなのがあればいいな」「こんな活動ができたらいいな」を共有し、学び合う懇談会を、毎月18日に定例で開催しました。

また、木幡学区内の住民誰もが立ち寄り、交流や情報交換を行ったり、志を同じとする人同士で、新たな動きや活動を生み出していくきっかけづくりとなる交流拠点の開設を第4土曜日に定め実施しました。当日は、当会職員も参加し、相談を受けるという姿勢ではなく、身近なできごとの話を伺いながら、社協の活動を地域住民に知ってもらえるよう努めています。

木幡地域の住民に特技を披露してもらう機会（ミシン裁縫、和楽器演奏など）や、自分にとっては不要であるが、誰かにとっては欲しい物になる可能性もあるのではという発案から「もらって下さいコーナー」などを設置しました。

(コラボプラザ ふらっとこはた 定例会メンバー)

六地蔵駅前の花壇整備などをされているグリーンボランティア／地域のふれあいサロン活動者／地元の民生委員／介護者家族の会や地元の木幡区の役員／木幡学区ウォークラリーへの参加を機につなげた人

(定例会) ※参加者には事務局人数含まず。事務局は毎回1～2名参加

日 時	①令和5年4月18日(火) 13:30～16:00 ②令和5年5月18日(木) 13:30～16:00 ③令和5年6月18日(日) 10:00～12:00 ④令和5年7月18日(火) 13:30～16:00 ⑤令和5年8月26日(土) 14:00～15:30 ⑥令和5年9月23日(土) 15:15～16:15	⑦令和5年10月18日(水) 13:30～15:30 ⑧令和5年11月18日(土) 13:30～16:30 ⑨令和5年12月18日(月) 13:30～15:30 ⑩令和6年1月18日(木) 13:30～15:30 ⑪令和6年2月18日(日) 10:00～12:00 ⑫令和6年3月18日(月) 13:30～16:30
場 所	①、②、③、④、⑨、⑩、⑫ コミュニティワークこはた館 ⑤、⑥木幡地域福祉センター ⑦、⑧、⑪ 木幡北畠集会所	
目 的	地域住民の思いを形にしなが、地域に関心を持つ参画者の輪を拓げる 居場所(毎月第4土曜日)の開催について企画を行う	
参加者	①5名 ②4名 ③4名 ④3名 ⑤6名 ⑥4名 ⑦6名 ⑧5名 ⑨6名 ⑩6名 ⑪5名 ⑫6名	
内 容	・木幡地域懇談会の方向性の確認 ・LINE を活用した情報集約・発信 ・懇談会参加者同士にて、木幡学区内の身近な情報やできごとの共有 ・交流の場の具体的な内容、準備に向けての意見交換	
実施して	地域の福祉課題に限らず、住民同士で、地域のことについて、フラットに語り合い、学び合い、共にやってみるを繰り返すことを意識して懇談会を行いました。毎回、木幡地域でのできごとを共有したり、住民に関心を持ってもらうための企画やアイデアを出し合っています。懇談会を継続する中で、参加者からは「自分ができること」の提案だけでなく、「やってみてはどうか」ということに対して、自分たち以外の誰かの力を借りる意識を持ち、声かけをしていくことが、地域福祉活動の参画者を増やしていくことにつながるという声も出ています。	

(コラボプラザ ふらっとこはた 居場所)

日 時	①令和5年4月22日(土)10:00~15:00 ②令和5年5月27日(土)10:00~15:00 ③令和5年6月24日(土)10:00~15:00 ④令和5年7月22日(土)10:00~15:00 ⑤令和5年8月26日(土)15:15~16:15 ⑥令和5年9月23日(土)10:00~15:00	⑦令和5年10月28日(土)10:00~15:00 ⑧令和5年11月25日(土)10:00~15:00 ⑨令和5年12月23日(土)10:00~15:00 ⑩令和6年1月27日(土)10:00~14:30 ⑪令和6年2月24日(土)10:00~14:00 ⑫令和6年3月23日(土)10:00~14:00
場 所	木幡地域福祉センター	
目 的	地域の方が、お互いにフラットな立場で、ふらっとおしゃべりに来て、自分が知らない情報を得たり、「地域の中にあつたらいいな」と思う活動の具現化を住民自らが進めたりする場にする。	
参加者	①23名 ②30名 ③41名 ④41名 ⑤18名 ⑥37名 ⑦19名 ⑧11名 ⑨11名 ⑩36名 ⑪27名 ⑫20名	
内 容	(地域住民のやりたいことや、特技を活かしたプログラム) ①家庭菜園講座 ②人形劇&パネルシアター ③苔テラリウムワークショップ ④夏まつり&プチ縁日 ⑤光る君への時代背景 ⑥家庭菜園講座 ⑦和楽器演奏&映画鑑賞会 ⑧民生児童委員と包括支援センターについて ⑨コケ玉づくりワークショップ ⑩和楽器演奏&光る君へ ⑪ミシン相談会&光る君へ ⑫皿回し・腹話術・マジックショー 他にも「もらってくださいコーナー」と「ドライフラワークリップづくり」などを常設しています。 プラレールのおもちゃも常設しており、子どもたちに大人気です。	
実施して	ロコミや SNS を通じて参加者も広がっていききました。また、夏祭りと呼んで、スーパーボールすくいなどを開催したり、綿菓子配布を実施したことで子連れの参加者や通りかかった人がふらっと立ち寄ってくださる場づくりができました。雨模様の日でも、家族連れ、中には3世代に渡って一緒に来られる人もおられました。また、普段から遊びに来てくれていた小学生が、チラシに記載していた「特技募集」の文字を見て、「自分はこれが得意だ」と言って参加者の前で「けん玉」を披露してくれたり、参加者との相互的な関係性を築けてきたような一面も見られました。他にもバルーンアートの趣味を活かし、定期的に一緒に居場所作りに携わってくださる方や、大学生がボランティアに来てくれるなど、今後も多様な関係性を築き、自分の住む地域へ能動的に関わる人を増やす働きかけや場面づくりを意識的に進めていくことが重要です。	

(3) 地域ひとつなぎ事業助成による、小地域福祉活動団体への支援

喜老会活動や地域での住民支え合い活動等の小地域福祉活動の実施により、人と人とのつながりづくりを進める活動に対して、京都府社会福祉協議会からの助成金を通じた活動支援を行いました。

(令和5年度 地域ひとつなぎ事業の助成状況)

	団体名	戸別 訪問	配食	電話	その他	助成額(円)
1	中宇治喜楽会	○		○		19,000
2	伊勢田喜老会	○	○	○		24,000
3	城南荘喜老会	○		○	○	24,000
4	槇島東喜老会	○		○	○	19,000
5	特定非営利活動法人 善法雇用促進協議会	○				34,000
6	宇治学区福祉委員会	○	○	○	○	34,000
7	西大久保自治喜老会	○	○	○	○	19,000
8	南遊田第一喜老会	○			○	19,000
9	小倉学区福祉委員会	○	○			34,000
10	南部学区福祉推進委員会	○	○		○	34,000
11	名木喜老会	○	○		○	19,000
12	南陵町喜老会	○	○	○		24,000
13	きらきらクラブ	○	○	○		24,000
14	志津川喜老会	○		○		19,000
15	おりさか悠々クラブ	○	○			24,000
16	小倉喜老会	○			○	24,000
17	神明学区福祉委員会	○	○			34,000
18	神明栗駒喜老会	○		○		19,000
19	一里塚さわらび会	○	○	○		19,000
20	御蔵山学区福祉委員会	○	○	○		19,000
21	南大久保喜老会	○	○	○	○	19,000
22	砂田喜老会	○		○		19,000
計	22団体	22	13	14	9	523,000

(4) 学区福祉委員会連絡協議会への支援

学区福祉委員会連絡協議会の事務局として、代表者会議(2回)の運営を支援し、当会からの運営費補助を活用して下記の事業に取り組むとともに、外部団体(宇治市要保護児童対策協議会、宇治市共同募金委員会、宇治市地域福祉推進委員会)への委員を選出しました。学区福祉委員強化月間(2月1日~3月31日)として、福祉委員募集ポスターを各学区福祉委員会に配布するとともに、市政だよりへの掲載(2月15日号)、社協だより(3月15日号)で福祉委員募集の記事掲載やFMうじへの出演を行いました。高齢化等の理由により、年間で96名の福祉委員の退会があった一方で、強化月間中に、69名の新規加入がありました。

令和5年度は「老いじたくを考える会」を講師に招いて開催した研修会は、福祉委員以外の方も参加可能として企画しました。また、参加をしたくても交通の便から参加を見合わせる学区福祉委員会もあるため、各学区1台分のタクシー代の助成を行いました。その効果もあり、97名の参加がありました。

(代表者会議)

日 時	①令和5年8月 2日(水)19:00~21:00 ②令和6年3月27日(水)19:00~21:00
場 所	①、②宇治市産業会館
目 的	各学区福祉委員会がどのような取組みを行っているのか、学区福祉委員会連絡協議会としてどのような事業が必要かについて確認する
参加者	①学区福祉委員会代表者21名(16学区・地区)、事務局3名 ②学区福祉委員会代表者18名(15学区・地区)、事務局4名
内 容	①令和5年度の学区代表者交代について 令和4年度の事業報告・決算報告・会計監査報告について 会計監査の後任について 令和5年度の事業計画・予算について 各学区福祉委員会の活動内容の情報共有について ②令和5年度事業実施状況及び執行状況について 令和5年度の事業計画の内容について 各学区福祉委員会の活動の共有
実施して	代表者会議にて、交流研修会の内容についての検討を行いました。交流研修会については、タクシー代を補助することや、福祉委員会活動を広げるきっかけづくりとして福祉委員以外の方も参加できるように取組むことを決めました。 また、毎回の会議で学区福祉委員会の活動内容の共有をしております。コロナが第5類に移行したことで、バザーなどの活動を再開する学区福祉委員会に対して、どのように取組みを再開したのかなど質問もあり、情報共有の場となりました。令和6年度の各学区福祉委員会の事業計画につながっていくと考えています。

(第11回きょうと地域福祉活動実践交流会(京都府版サミット)への参加)

日 時	令和5年11月25日(土) 13:00~16:15
場 所	お茶と宇治のまち歴史公園(オンラインでの参加) 【主催者実施場所】福知山市大江町総合会館1階
目 的	京都府内の地域福祉活動の実践を共有し、今後の活動に生かしていく
参加者	15学区・地区社協 33名、事務局 6名(うち社協実習生2名)、計39名 (※「おぐらばんごはんかい」からも1名参加)
内 容	第11回きょうと地域福祉活動実践交流会 【講演】 「つながりづくりに楽しくチャレンジ! ~みんなが主役のまち、そして輝く未来へ~」 講師:西川 正 氏(特定非営利活動法人ハンズオン埼玉 副代表理事) 【実践報告と意見共有】 ①子ども食堂あいこのいえ:舞鶴市 「“居場所”としての子ども食堂~食べる喜び、つながる心~」 ②そやなあ談義(市内全域の男性介護者の集い):綾部市 「『そやなあ』の心で満ちる そやなあ談義」 ③上紺屋・鍛冶町ふれあいいいききサロン&ラジオ体操:福知山市 「地域住民が主人公!楽しくつながる日々の暮らし」 【各会場でのグループワーク】 サテライト会場では、6グループに別れてグループワーク 【まとめ】 西川 正 氏(特定非営利活動法人ハンズオン埼玉 副代表理事)
実施して	参加をされた福祉委員からは、「宇治市内に類似の活動があるか」との質問がありました。子ども食堂や、男性に限らない介護者の集いがあることを伝達し、学区福祉委員会以外の活動にも関心を持ってもらうきっかけとなりました。

(福祉委員会交流研修会の開催)

日 時	令和6年1月31日(水) 10:00~12:00
場 所	宇治市生涯学習センター
目 的	学区福祉委員会に加入してもらうために声かけをしやすい内容にして、福祉委員以外の参加を促す。また、福祉委員会に加入していて、良かったと思ってもらえる取組とする。
参加者	15学区・地区 97名、事務局 3名 計100名
内 容	【講演】 自分らしく老いるために~認知症その時に慌てないよう、財産対策の備えを!~ 講師:老いじたくを考える会 廣兼 恒久 氏 ①認知症~その時に慌てない財産対策とは?~ ②事例で考える 家族信託で備える ③質疑応答
実施して	福祉委員加入のきっかけにつなげるため、福祉委員以外の方も参加が可能な研修会を実施しました。そのことにより、福祉委員以外の参加もあり、福祉委員の活動について知ってもらうきっかけとなりました。



きょうと地域福祉活動実践交流会
(オンライン参加)



福祉委員会交流研修会

(福祉委員の募集の強化月間)

日時	令和6年2月1日(木)~3月31日(日)
目的	福祉委員を募集し、活動の後継者や、活動に参加する市民の裾野を広げる
参加者	20学区福祉委員会
内容	①社協だより 3月15日号 掲載 ②市政だより 2月15日号 掲載 ③各学区独自の広報紙の作成 ④ポスター掲示物の配布 ⑤FM うじへの出演
実施して	福祉委員募集の強化月間を通じての加入は69名、年間を通しての退会者は96名でした。毎年、新規に福祉委員に登録される人はありますが、退会者が新規加入者数を大幅に上回ることがあるため、福祉委員全体としての人数は、減少傾向にあります。

(福祉委員募集の強化月間推移)

(単位:人)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新規加入者	36	43	69
退会者	71	102	96

2. 多様な住民の語り合いの場づくり

宇治 補助
社協 委託

目 標／身近な関心事や不安を抱えている当事者の思いを共有できる場づくりを通じて、多様な住民の参加、参画を進めます。

取組み／小学校区を基盤に、多様な住民が思いを持ち寄り、学び合い、共に取組みを進めていける場づくり

伊勢田小学校区で、PTA 関係者をはじめとする伊勢田地域の地域活動に携わっている団体・関係者や、生活支援コーディネーター(「以下、SC」)などが集まり、地域での関心ごとや各団体の活動状況と課題などを自由に話し合える場が開かれています。その話し合いを機に子どもの見守りや多世代の地域交流を意識した、伊勢田小学校でのラジオ体操プロジェクトが実現しました。そのプロジェクトが生まれたきっかけは、地元のPTA 役員から、子どもの見守り体制を広めたいという相談を受けた地区担当職員が、「地域の高齢者に子どもの見守りを手伝ってもらいながら、小学校まで来てもらい、その場でラジ

オ体操ができれば、見守りの強化と高齢者の健康や生きがいづくりになるのでは」という提案からでした。担当地域のSCにも中心に関わってもらい協議の場が重ねられました。今では、朝、登校する小学生と地域住民にも認知され始め、小学校始業前のラジオ体操の輪に加わる人数が徐々に増えています。

現在、プロジェクト会議では、ラジオ体操の実施状況等についての共有に加え、新たなプロジェクトのタネを見つけるための話し合いを地域住民や諸団体の皆さんと重ねています。

(伊勢田ふれあいプロジェクト)

日 時	①令和5年5月8日(月)19:00~21:00 ②令和5年7月4日(火)17:00~19:00 ③令和5年8月7日(月)17:00~19:00 ④令和5年9月4日(月)8:00~9:00	⑤令和5年9月25日(月)8:00~9:00 ⑥令和5年10月10日(火)19:00~20:45 ⑦令和5年11月27日(月)18:00~19:30 ⑧令和6年3月19日(火)17:00~18:30
場 所	伊勢田小学校(①②④⑤⑥)、西小倉地域福祉センター(③⑦⑧)	
メンバー	伊勢田小PTA/伊勢田学区福祉委員会/伊勢田小CSコーディネーター/生活支援コーディネーター/長寿生きがい課/西宇治地域包括支援センター/宇治市社協	
内 容	ふれあいプロジェクト会議(①⑥) プロジェクト会議に向けた事務局会議(②③⑦⑧) 伊勢田ふれあいラジオ体操への参加(④⑤)	

西小倉地域でも、当該地域の高齢者や子どもたち等、幅広い世代が身近に立ち寄れる居場所を知ることができる取り組みに関する話し合いの機会が持たれ、地区担当が会合に参加しました。

11月には西小倉地域を歩き、身近な居場所を知ってもらう「にしおぐら de おさんぽラリー」というイベントを地域の子ども食堂や商店等と協働開催されました。

(西小倉ふれあいプロジェクト)

日 時	①令和5年9月5日(火)14:00~16:00 ②令和5年9月26日(火)18:00~19:30 ③令和5年11月26日(日)10:00~15:00(※イベント開催日/担当者は欠席)
場 所	和みカフェ(①②)、西小倉地域福祉センターほか(③)
メンバー	おぐらばんごはん会/和み食堂/フラワーショップ花おり/長寿生きがい課/西宇治地域包括支援センター/宇治市社協
内 容	ふれあいプロジェクト会議(①②) にしおぐら de おさんぽラリー(イベント当日)(③)

(事業所と当事者支援団体との連携による地域の場づくり)

訪問介護や放課後等デイサービス事業を展開している宇治市内の事業所が、南小倉地域で「駄菓子屋」を定期的にオープンされています。地域の子どもから高齢者まで、様々な人が来られる交流の場を作りたいという展望を聞いています。当会に「駄菓子屋を開店するにあたり、関わってもらえる人を探している」という相談がありました。そこで、青年の社会参加を応援する会「実のり」の代表に「駄菓子屋」の存在と、今の困りごと等を含めて話をしたところ、会の中で「店番を手伝いたい」という当事者が手を挙げてくれました。5月から月に1~2回のペースで店番をされています。ご家族は、「店番をするようになり表情が明るくなった」と喜ばれています。「駄菓子屋」は地域の小学生や高齢者にも認知されるようになってきています。店舗奥の空間では数名が作業をしたり、ミーティングをしたりすることができるようにリフォーム作業が進んでいます。当会としても、地域の様々な人が集う場が広がるよう、喜老会や学区福祉委員会等への情報提供を始め、PR活動のサポートを行っています。

3. Hot!ふれあいサロン活動への支援 補助 歳末 委託 募金

目 標／Hot!ふれあいサロン(以下「サロン」)活動を通じた、身近な人と人とのつながりを絶やさない取組みを支援します。

取組み／市内のサロン活動のネットワークづくりとサロン交流会・研修会の実施
参加希望者との調整や活動者への情報提供
新たなサロンの立ち上げ支援

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、本格的にサロン活動が再開するとともに、引き続き、つながりを絶やさない活動(訪問活動や電話、オンラインツールを活用した見守りなど)が行われました。

少しずつではありますが、コロナ禍前の活動に戻ってきています。各サロンからは、「サロンに行き、帰る時はとても元気になって帰られる」、「サロンに来ておしゃべりすることが楽しみ」、「サロンに来ることによってお友だちができた」、「参加者のご家族の方から、“この地域になら一人で居てくれても安心”と言われた」という声がありました。一方で、令和5年度も登録を止めるサロンや解散されるサロンもありました。その理由として、「高齢化してきて参加者が減っている」「参加の声かけをする元気がない」という声がありました。また、「サロン活動をやり切った」という声もありました。

(1) サロン助成金交付推移と一覧

令和5年度は、84件のサロン申請(助成金申請サロン76件、登録のみサロン8件)があり、宇治市共同募金委員会を通じて、76件のサロンに助成金交付が行われました。新型コロナウイルスが5類へ移行したこともあり、新たに6件のサロンの新規助成金申請がありました。一方で、新型コロナウイルスの影響や高齢化、担い手不足、参加者減少によるサロンの解散が9件ありました。

(サロン数と分類) 全体84団体

(単位:団体数)

サロン分類	高齢者	障害者	子育て	多世代(高齢・障害・子育て・児童)	その他
箇所数(割合)	69(82.1%)	1(1.2%)	4(4.8%)	8(9.5%)	2(2.4%)

(サロン登録数及び助成金交付の推移)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
助成金申請額(円)	2,750,500	2,553,500	2,447,000
助成金決定額(円)	2,750,500	2,553,500	2,447,000
助成金確定額(円)	2,652,500	2,418,756	2,435,000
登録数()内は登録のみサロン数	103(15)	90(9)	84(8)
新規登録数	3	4	6

※助成決定額:年度当初に申請を受けて決定した額/助成確定額:年度終了時の活動実績に基づいて確定した額

(登録・助成金交付サロン一覧)

	登録	サロン名	類型	会場学区	助成決定額 (円)	助成確定額 (円)
1		HOT ふれあいサロンかようかい	地縁	南小倉	55,000	55,000
2	○	一福会	地縁	南部	-	-
3		野神ふれあいサロン	地縁	菟道第二	19,000	19,000
4	○	うたごえ喫茶のびのび	テーマ	宇治	-	-
5		ホットサロンやすらぎ	地縁	榎島	19,000	19,000
6		Hot!ふれあいサロン「京かのこ」	地縁	木幡	19,000	19,000
7		ミニホットサロンひまわり	地縁	大久保	19,000	19,000
8		サロン広芝	地縁	宇治	19,000	19,000
9	○	御蔵山サロン	地縁	御蔵山	-	-
10	○	明星ホットサロン	地縁	三室戸	-	-
11		ほっとふれあいサロンひまわり	地縁	宇治	10,000	10,000
12	○	よもやま会	地縁	北小倉	-	-
13		おこしやす	地縁	宇治	31,000	31,000
14		ともしび	地縁	西大久保	43,000	43,000
15		HOTふれあいサロン権現	地縁	菟道第二	19,000	19,000
16		フレンドサロン	地縁	南部	19,000	19,000
17		南山ふれあいサロン	地縁	御蔵山	37,000	37,000
18		もみじ会	地縁	大久保	19,000	19,000
19		どんぐりっこ	テーマ	伊勢田	55,000	55,000
20		喜楽会	地縁	榎島	19,000	19,000
21		ポヨポヨキッズ	テーマ	菟道第二	37,000	37,000
22		サロンお茶の子会	地縁	南部	19,000	19,000
23		ほっこりスペース あい	テーマ	御蔵山	55,000	55,000
24		HOTふれあいサロンあじさい	地縁	小倉	55,000	55,000
25		むらさき気楽会(水)	地縁	榎島	55,000	55,000
26		ホットサロンゆうゆう	地縁	岡屋	30,000	30,000
27		フリースペース「おやすみ」	テーマ	西小倉	55,000	55,000
28		白寿お茶飲み会	地縁	宇治	30,000	30,000
29		くりくま健功会	健康	大久保	37,000	37,000
30		楽しく料理を作ろう会	テーマ	北榎島	19,000	19,000
31		北榎ハーモニー	地縁	北榎島	55,000	55,000
32		生き生き教室203	健康	小倉	37,000	37,000
33		サロン妙楽	地縁	菟道	19,000	19,000
34		北内Hot!ふれあいサロン	地縁	榎島	25,000	25,000
35		Twinkle Tweety	テーマ	木幡	13,000	13,000

36		サロン車田	地縁	南部	19,000	19,000
37		ハモフレ	テーマ	神明	43,000	43,000
38		開ひまわり会	健康	神明	37,000	37,000
39		丸山はづきの会	地縁	南部	19,000	19,000
40		つるかめ	地縁	榎島	19,000	19,000
41		色えんぴつ	地縁	御蔵山	55,000	55,000
42		おやこサロン にこにこたち	テーマ	菟道第二	19,000	19,000
43		ワクワク光	地縁	菟道	15,000	15,000
44		サロン榎の島	地縁	榎島	25,000	13,000
45	○	サロンふれあいの森	地縁	榎島	-	-
46		冒険遊び場 うさぎはらっぱであそぼうよ!	テーマ	宇治	19,000	19,000
47		天神台ふれあいサロン絆	健康	神明	43,000	43,000
48		Hot!ふれあいサロン田原	地縁	西大久保	19,000	19,000
49		サロン白川	地縁	菟道	25,000	25,000
50		サロン絆	地縁	伊勢田	31,000	31,000
51		サロンいきいき	健康	榎島	30,000	30,000
52		文化サロン「ゑん」	テーマ	大久保	19,000	19,000
53		福寿会	地縁	南小倉	13,000	13,000
54		アルス、シルバー会	テーマ	木幡	13,000	13,000
55		羽戸山サロン	地縁	宇治	55,000	55,000
56		縁が和サロン	地縁	小倉	49,000	49,000
57	○	なかよし会	健康	木幡	-	-
58		ホットサロン月夜	地縁	榎島	37,000	37,000
59	○	イキイキの会	健康	榎島	-	-
60		南陵台ふれあいサロン「和み」	地縁	小倉	55,000	55,000
61		わかさ(健笑会)	健康	小倉	20,000	20,000
62		城南荘 木曜カフェ	地縁	大開	37,000	37,000
63		金曜サロン	地縁	岡屋	55,000	55,000
64		サロン山の家	テーマ	笠取	55,000	55,000
65		かもめサロン麻雀倶楽部	地縁	大開	37,000	37,000
66		カフェすみやま	テーマ	笠取第二	25,000	25,000
67		南陵町健康サロン「健やか」	健康	小倉	43,000	43,000
68		楽楽クラブ	テーマ	菟道	37,000	37,000
69		むらさき気楽会(木曜日)	健康	榎島	55,000	55,000
70		サロンおこしやす	地縁	神明	19,000	19,000
71		ユニエスさくら	健康	菟道第二	55,000	55,000
72		南陵台友愛サロン「フレンズ」	地縁	小倉	43,000	43,000

73	サロン巨椋	地縁	榎島	37,000	37,000
74	しゃべり場カフェ	テーマ	宇治	19,000	19,000
75	ほっと!スマイル	地縁	大開	37,000	37,000
76	子育てサークルそよかぜ	テーマ	菟道	19,000	19,000
77	おやこサロン mimosa	テーマ	伊勢田	55,000	55,000
78	anco kids	テーマ	菟道	19,000	19,000
79	ホット茶論レインボー	テーマ	南小倉	19,000	19,000
80	楽老会	健康	木幡	55,000	55,000
81	ほほえみのつどい	テーマ	伊勢田	37,000	37,000
82	tone ひろば	テーマ	菟道	25,000	25,000
83	シロツメクサ	地縁	菟道	23,000	23,000
84	陽だまりの会	地縁	平盛	19,000	19,000

(2) サロン研修会の開催

サロン活動をしていくにあたり、運営者側は「何かをしなければいけないと毎回の企画を考えたり、準備をしたりなど、活動を続けること自体がしんどくなってしまうこともある」と伺うことがあります。実際にサロンへ見学に行き、参加している方の声を聞いたところ、「そこにサロンがあるだけで良い」「今のままで良い」と、多くを求めない参加者の元気な笑顔がありました。日々がんばっているサロン運営者に参加者の率直な思いを届けたいという目的にて研修会を実施しました。

(サロン研修会の実施) ※ボランティア研修会の一部として実施

日 時	令和5年11月30日(木) 10:00~12:00
場 所	宇治市総合福祉会館 大広間
目 的	サロン活動者から「毎回の企画を考えるのが大変」、「準備が大変」という声を聞くことがあります。しかし、実際に見学に行くと、「その場にサロンがある」、それだけで皆さんの笑顔があることに気が付きました。サロン活動に参加することで社会や人とのつながりができ、フレイル予防にも効果があることを伝えるとともに、今後もサロン運営者が活動を続けていけるようモチベーションアップにつなげる。
参加者	18名
内 容	「サロンのええとこ見つけ隊」 ・サロン取材報告 ・テーブルごとに交流会 ・取材先サロンの「ええねん」の紹介、参加者サロンの「ええねんの共有」 ・その他の活動者のための情報共有
実施して	サロンの取材では「立ち上げエピソード」やサロン活動の参加のきっかけ等を記入いただき、テーブル毎に共有の時間を設けました。参加者は、サロンでの取組みや作った作品の披露等、他サロンの話を熱心に聞いておられました。 サロンを立ち上げた時の思いやきっかけを話したり、自身で振り返ることで、「気負わなくて良い」、「今のままで良い」というサロンの良さに改めて気付ける場となりました。



サロン研修会の様子

(3) サロン活動者懇談会「サロンのための さろん Salon for salon」の実施

ふれあいサロン活動者同士が主体的に活動内容を話し合ったり、日頃の思いや悩み、課題等を共有できる場づくりの一つとして、市内のふれあいサロンのネットワークづくりを目的に、趣旨に賛同いただいたサロン活動者による懇談会を実施しました。

サロンのための さろん (Salon for salon)

日 時	①令和5年 4月18日(火) 10:00~12:00 ②令和5年 6月20日(火) 10:00~12:00 ③令和5年 8月22日(火) 10:00~12:00 ④令和5年10月24日(火) 10:00~12:00 ⑤令和5年12月12日(火) 10:00~12:00 ⑥令和6年 2月27日(火) 10:00~12:00
場 所	宇治市総合福祉会館
目 的	サロン活動での日頃の思いや悩み、課題等を共有し、サロン活動者の主体で進める市内のふれあいサロンのネットワークづくり
参加者	①8サロン(11名) ②7サロン(9名) ③6サロン(7名+社協実習生2名) ④5サロン(7名) ⑤7サロン(8名) ⑥7サロン(7名+社協実習生1名)
内 容	①これまでの振り返りと今年度について ②”私〇〇が得意です!”~サロン同士でつながろう~ ③気になる人がいた場合の声かけ ④運営費について ⑤交流会報告、改めて Salon for Salon で知りたい、情報共有したいこと ⑥年末年始の話、各サロンのストレッチ体操・脳トレを紹介、共有
実施して	サロン活動にて、好評だったプログラムや工夫したこと、活動内容を知り合う場、また、気になる方がいた時の声かけや、どのように対応されているか等情報共有の場となっています。令和5年度は、「私〇〇が得意です!」と、得意なことを伺い、他のサロンにゲスト出演され、サロン同士がつながっていきました。今後も声かけをしながら、サロン活動者同士のつながりを広げていきます。

(オンラインサロン)

日 時	①令和5年4月19日(水)10:00~11:30 ②令和5年5月17日(水)10:00~11:30 ③令和5年6月21日(水)13:30~15:00 ④令和5年7月19日(水)13:30~15:00 ⑤令和5年8月23日(水)13:30~15:00 ⑥令和5年9月20日(水)13:30~15:00	⑦令和5年10月18日(水)13:30~15:00 ⑧令和5年11月15日(水)13:30~15:00 ⑨令和5年12月20日(水)13:30~15:00 ⑩令和6年1月17日(水)13:30~14:30 ⑪令和6年2月21日(水)13:30~15:00 ⑫令和6年3月27日(水)13:30~15:00
場 所	Zoom によるオンライン	
目 的	コロナ禍を機に、一同に集まらなくても、気軽にふれあいサロンや身近な関心事の情報交換ができるようなオンラインによる交流の場づくり	
参加者	各回4~5名	
内 容	①「マイナンバーカード、キャッシュレス決済について」 ②「我が家の朝ごはん」 ③「睡眠について」 ④「カード(クレジット、キャッシュカード等)について」 ⑤「詐欺メールの対処法は?」 ⑥「キャッシュレスの活用」 ⑦「住宅土地統計調査ってご存じですか?」 ⑧「この秋(10月~11月)、楽しかったこと」 ⑨「今年、自分もしくは家族の重大ニュースの中から楽しかったこと一つ」 ⑩「今年何かする予定はありますか?」 ⑪「高齢者がランチを楽しめる宇治のお店」 ⑫「日頃健康維持のために心がけていること」	
実施して	令和4年度から引き続き、オンライン上で身近な話題や家族の話、若いころの話、ご自身が参加されている活動の話等、お互いを知り合う機会も増えてきました。また、日頃気になっていることも情報共有できる場となっています。今後は、オンラインは苦手だという方でも気軽に参加できるような声掛けや工夫が必要です。	

(サロン相談会 ~報告書編~)

日 時	①令和6年3月23日(土)10:00~12:00 木幡地域福祉センター 創作室 ②令和6年3月25日(月)11:00~12:00 槇島地域福祉センター
目 的	報告書の記入方法についての相談、活動についての相談
参加 サロン数	①2サロン ②10サロン
内 容	令和5年度のサロン活動報告書の記入相談他
実施して	「わからないことを直接聞けることで、難しく考えずに記入ができた」と、参加されたサロンの方からお声をいただきました。また、普段のサロン活動の話もゆっくり聞くことができました。報告書の記入の負担を少しでも軽減することで、サロン活動をこれからも続けようという気持ちにつながられるように、今後も相談会の実施を検討します。

4. 宇治ボランティア活動センターの運営支援によるボランティア活動の拡充

目 標／市民主体によるセンター運営への支援を通じ、ボランティア活動の拡充を図ります。
取組み／市民との協働によるボランティア活動センターの運営
広く市民がボランティアに参画できるきっかけづくりやコーディネート

(1) 宇治ボランティア活動センター運営委員会へのかかわり

宇治ボランティア活動センター（以下、活動センター）では、毎月役員会と運営委員会が定例開催されています。当会からは担当職員が活動センターの副事務局長として参画し、役員会への出席、運営委員会への情報提供、活動センター宛の文書の受付や他機関からの依頼事項の伝達、催しの広報活動、各種申請手続き、運営委員間の連絡調整等を行いました。当会として、市民とのパートナーシップを大切にしたいと、活動センターの協働運営に重点を置いていることから、運営委員による主体的な活動センターの運営に必要な支援や、当会の取組みへの参加協力の調整を行いながら、地域福祉の推進やボランティア活動の拡充を行っています。

開始3年目となる、SDGs 清掃ボランティア活動は、初めてボランティアに参加する人の活動のきっかけになるとともに、障がい当事者や福祉施設関係者と一緒に活動ができる場として、広報チラシの作成や参加者の呼びかけに協力しました。

令和4年3月から始まった、日常生活のちょっとした困りごとのお手伝いをする「生活応援隊」は、年間100件以上の依頼に対して活動が行われました。当会としては、ボランティア活動を始めたいという相談者に生活応援隊のサポーターへの登録を勧めたり、活動紹介チラシを各学区福祉委員会等の会議で配布するなどの側面的なサポートを行いました。

今後の活動センターの運営においては、約200名の個人登録ボランティアを始め、学生や勤労世代など誰もが参加できるボランティア活動の機会づくりをさらに意識した取組みを進めるとともに、運営委員として活動センターに参画してもらえる人の輪を拡げていくことが大切です。

(2) 運営委員会との協働による取組み概要

実施日(頻度)	事業名	実施場所
毎月1回	役員会	総合福祉会館
毎月1回	運営委員会	総合福祉会館
毎月11日	イエローレシートキャンペーン(店頭での団体PRは中止)	イオン久御山
年数回	宇治市災害ボランティアセンターへの参画	総合福祉会館
奇数月	情報紙「パートナー」発行	総合福祉会館
奇数月第2日曜日	ボランティアマッチングサロン	総合福祉会館
概ね月1回	生活応援隊定例会	総合福祉会館
5月～12月	京都文教大学ボランティア演習による学生受入れ(春・秋)	総合福祉会館
6月17日(土)	宇治市障害者スポーツ大会への協力	西宇治体育館
4月23日(日)	第30回定期総会	総合福祉会館
6月26日(月)	団体・個人登録者会館清掃交流	総合福祉会館
7月28日(金)	宇治市健康長寿サポーターステップアップ講座 →宇治ボランティア活動センターの活動紹介	宇治市役所
9月12日(火)	運営委員研修	Ma・RooTs (マ・ルート)

10月1日(日)	赤い羽根共同募金への協力 →街頭募金活動への参加・グループ募金協力	宇治市内等
11月5日(日)	ボランティアフェスティバル&思いの駅伝 ヒューマンライブラリーの開催 団体・個人のステージ発表、パネル展示、過去の思いの駅伝 動画の放映	総合福祉会館
1月12日(金) 1月26日(金)	「はじめよう!セカンドライフ」講座	生涯学習センター
2月 4日(日)	バリアフリー上映会	生涯学習センター
2月24日(土)	令和5年度 健康長寿フェス2023 への出展	生涯学習センター
3月17日(日)	SDGs清掃活動ボランティアの実施	興聖寺周辺



宇治ボランティアフェスティバル



SDGs 清掃活動ボランティア

5. 加入団体と連携した宇治市災害ボランティアセンターの運営

補助 赤い
委託 羽根

目 標／日常の延長上にある「災害時」を意識し、災害時にも強いまちづくりに寄与します。
取組み／総会や訓練、運営委員会において災害時を意識した「日常の関係づくり」の構築

新型コロナウイルス感染症の拡大を機としたオンラインによる会議や ICT の活用は、平常時を始め災害時の災害ボランティアセンターの運営に必要な不可欠となっています。

日ごろからの「顔の見える関係づくり」を理念に、災害時に、個人、地域、団体、組織等のつながりの力を活かせるよう、オンラインを併用した運営委員会や研修会に取組みました。

また、各種の防災行事への出展を通じて宇治市災害ボランティアセンターの PR 活動を行いました。

(1) 運営体制の強化

(第16回総会)

日時	令和5年6月10日(土) 10:00~12:00
実施場所	宇治市総合福祉会館 大広間
参加者	68団体(会場39団体・委任状29団体) ※正会員75団体中 74名(会場41名、オンライン4名、委任状29名) 来賓2名(宇治市・京都府災害ボランティアセンター)、事務局3名

実施内容	<p>(議案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告・決算報告について ・令和5年度事業計画・予算について <p>(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員の一部交代について <p>(講演会)</p> <p>講演「宇治市災害ボランティアセンターの課題と展望」 講師:宇治市災害ボランティアセンター運営委員 加藤博史氏</p>
実施して	<p>講演会では、講師が参加した、阪神淡路大震災や福井豪雨災害での被災地支援活動の体験談を皮切りに、災害ボランティアセンターの運営にとって大事にするべきポイントのお話をいただきました。平常時からの当事者団体とのやり取りや要配慮者情報を把握しておくこと、行政を始め、福祉施設、自治会・町内会、教育機関との日頃からの顔の見える関係づくりの大切さを教えていただきました。具体策として「災害対策本部」、「災害ボランティアセンター」、「各自治会防災担当」をつなぐフローチャートの作成など、被災地時に一体となって動いていくための提案をいただきました。</p>

(運営委員会)

日 時	<p>①令和5年5月31日(水)19:00~21:00 ②令和5年8月 9日(水)19:00~20:45 ③令和6年1月31日(水)19:00~20:45</p>
場 所	宇治市総合福祉会館／オンライン
参加者	<p>①会場参加10名 オンライン参加2名 ②会場参加11名 オンライン参加1名 ③会場参加 9名 オンライン参加3名</p>
内 容	<p>①総会に向けての協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業報告・決算／令和6年度事業計画・予算 等 <p>②市社協の運営委員交代による新代表の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇治市災害ボランティアセンターの役割の共有 ・宇治市防災訓練への参加協議 等 <p>③台風7号による福知山市・綾部市への災害支援活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度能登半島地震支援活動の状況について ・宇治市災害ボランティアセンター研修会について 等
実施して	<p>いずれもオンライン併用にて実施しました。年間を通じて、台風や異常気象による豪雨災害、令和6年度能登半島地震等が発生しました。都度、情報共有を行い、各地のボランティア募集情報を発信するとともに、一部、運営委員も被災地でのボランティア活動に参加しました。情報共有は LINEWORKS でも行い、運営委員同士の連絡をスムーズに行うことができました。</p>

(研修会)

日時	令和6年3月3日(日)10:00~12:00(研修会)
場所	東宇治地域福祉センター／オンライン
内容	①講演:「災害支援の備え」は日常業務の整頓から始まる 講師:峠健太郎氏 (宇治市在住/サイボウズ公認 kintone エバンジェリスト/ドローン空撮師・災害対策撮影士2級/元・京都 DWAT) ②報告:「能登半島地震避難所運営に参加して」 報告者:山本博之氏(宇治市役所) (協力)オンライン要約筆記:特定非営利活動法人ゆに
参加者	登録団体37団体・41名 (会場参加:33名(うち運営委員11名)オンライン参加:8名)
実施して	今後の当センター運営へのICT導入を見据え、能登半島地震での活用の実際を交えたお話をいただきました。災害ボランティアセンターの運営にICT(kintoneなど)のクラウド型支援システムを導入する前に「何のための導入なのか」「仕組みを作るも使うも育てるも、全て人である」こと意識が必要だと学びました。また、日常的に様々な場面で主流となっているツール(LINE, Facebook, インスタグラム等)に慣れておくことの大事さをお話いただき、改めて、災害時対応は平時対応の延長線上にあることを参加者と共有できました。また、今回もオンライン配信に字幕を付けた情報保障を行いました。日常や被災時でも聴覚に不安のある人とオンラインでやり取りする際のイメージ作りをすることができました。



研修会の様子

(2) 災害ボランティアセンターのPRと災害義援金活動

運営委員とともに、宇治市防災訓練に参加し、リーフレットの配布や京都府南部地域豪雨災害時の記録パネルを展示しながら、宇治市災害ボランティアセンターのPRを行いました。

また、令和6年能登半島地震被災地支援として、街頭での義援金活動を行いました。

(防災訓練への参加)

日時	①令和5年10月22日(日) 9:00~12:00 ②令和5年12月 9日(土) 10:00~12:00
場所	①大久保小学校 グラウンド ②西小倉小学校 グラウンド
参加者	①運営委員8名 事務局1名 ②運営委員5名 事務局1名
内容	宇治市防災訓練への参画・京都府南部豪雨水害のパネル展示 ①宇治市防災訓練 ②西小倉地域防災訓練
実施して	参加者からは、平成24年の京都府南部地域豪雨災害の被災状況を知られない人や当時、木幡地域に住んでいて大変だったという人など、住民の皆さんに運営委員が直接、被災時の様子を伝え、当センターの活動や役割を伝えることができました。今後は、出展時のパネル展示のみに限らず、住民の皆さんに体験してもらえような防災ミニワークショップなども取り入れ、当センターを、より身近に感じてもらえるよう工夫します。



宇治市防災訓練



西小倉地域防災訓練

(宇治市防災シンポジウムへの参加)

日時	令和5年11月11日(土) 10:00~12:00
場所	京都大学宇治おうばくプラザ きはだホールロビー
内容	宇治市防災シンポジウム(宇治市主催)への参加と京都府南部地域豪雨災害のパネルの展示
参加者	②運営委員2名 事務局1名(他一般参加の運営委員あり)
実施して	「日頃からの顔の見える関係づくり」の大切さを参加者に伝えることができました。シンポジウムの内容には、防災について、中学生の実践発表会もあったため、その保護者にも、パネル展示を通じて災害ボランティアセンターのPRをすることができました。

(災害義援金活動)

日 時	令和6年3月3日(日)14:00~15:00
場 所	アルプラザ宇治東店舗入口
内 容	令和6年能登半島地震にかかる街頭での災害義援金活動
参加者	運営委員6名 事務局1名
実施して	現地ボランティアには行けないけれど、何かできることは無いかと急遽、運営委員による義援金活動を行いました。「少しだけでも役立てて」「自分も能登の出身で」という人など、買い物の行き帰りに足を止めて多くの人に協力をいただくことができました。(義援金額:38,837円)

(3) 京都府災害ボランティアセンターへの協力**【京都府災害ボランティアセンターへの運営委員としての参画】**

日 時	場 所	内 容
令和5年 5月24日(水)16:00~17:30	オンライン	第1回運営委員会
令和5年 7月 6日(木)10:00~11:30	ハートピア京都	第1回訓練研修部会
令和5年 7月31日(月)15:00~16:30	ハートピア京都 及びオンライン	第2回運営委員会
令和5年 8月17日(木)11:00~12:00	オンライン	第3回運営委員会
令和5年 8月23日(水)10:30~11:00	オンライン	第4回運営委員会
令和5年11月29日(水)15:30~16:30	オンライン	第5回運営委員会
令和6年 1月11日(木)16:00~17:00	オンライン	第6回運営委員会
令和6年 2月 9日(金)11:00~12:00	オンライン	第7回運営委員会
令和6年 2月20日(火)16:00~17:00	オンライン	第8回運営委員会
令和6年 3月18日(月)16:00~17:00	オンライン	第9回運営委員会

【京都府災害ボランティアセンター総会】

日 時	場 所	出席者
令和5年6月3日(土)9:30~11:00	京都テルサ 及びオンライン	運営委員1名

【京都府災害ボランティアセンター研修会への参加】

日 時	場 所	内 容/参加者
令和5年6月23日(金)10:30~16:30	ハートピア京都	初動支援チーム新規登録者向け 研修 参加者:運営委員1名
令和5年6月24日(土)10:00~16:00	京都学・歴彩館	初動支援チームフォローアップ 研修 参加者:運営委員1名
令和5年6月28日(水)13:00~15:30	京都学・歴彩館	災害時における情報発信に関する研 修会 運営委員3名 事務局1名

【被災地支援活動への参加】

(台風7号による災害支援活動) ※京都府災害ボランティアセンター運営委員としての参加分

日時	場所	内容/参加者
令和5年8月18日(金)~8月19日(土)	福知山市災害ボランティアセンター	京都災害ボランティアセンター先遣隊:参加者:運営委員1名
令和5年8月26日(土)~8月27日(日)	綾部市災害ボランティアセンター	被災地支援ボラバスリーダー参加者:運営委員1名

(令和6年度能登半島地震支援活動)

日時	場所	内容/参加者
令和6年2月16日(金)~2月17日(土)	七尾市災害ボランティアセンター	京都災害ボランティアセンター先遣隊:参加者:運営委員1名
令和6年3月25日(月)~3月26日(火)	七尾市災害ボランティアセンター	被災地支援ボラバスリーダー参加者:運営委員1名

6. 当事者団体の支援を通じての地域生活支援

赤い羽根 補助委託

目 標/当事者団体による情報発信が、より広く市民に伝わるよう広報します。

多様な住民に当事者の思いを伝えることができる場づくりを支援します。

取組み/共同募金委員会や市の助成金等を媒介にした当事者団体の運営相談支援

当事者団体の現状を把握、関係機関や関心のある人を増やす支援、取組みの実施
宇治市介護者家族の会と連携した在宅高齢者介護者リフレッシュ事業の実施

(1) 当事者団体への支援

宇治市共同募金委員会が実施する「赤い羽根コラボ助成」や宇治市からの補助による「地域共生社会推進事業(地域つながり活動支援助成)」の情報提供を通じて、助成金などの活用支援を行いました。また、当事者団体の会合に参加して、当事者の思いを聞かせていただいたり、青年期以降の発達障がい親の会の取り組みを社協だよりを通じて紹介しました。

他にも「ほっこりスペース あい」を通じて、当事者の社会参加のきっかけ作りとして、宇治ボランティア活動センターの広報誌発送作業に参加いただくなど、活動場所の提供などを行っています。

当会には、様々な当事者から多様な相談が寄せられます。相談者の声を聞き、当事者団体を紹介したり、必要な情報を届け、相談者の孤立を防ぐ役割があります。今後も、その役割を十分発揮できるよう努めます。

(2) 在宅高齢者介護者リフレッシュ事業の実施

在宅高齢者介護者リフレッシュ事業は、要支援や要介護認定を受けている高齢者を在宅で介護する宇治市在住の人たちの心身のリフレッシュと、介護者同士の相互交流を目的に企画・開催しました。

「宇治市外へバスで移動するレクリエーション企画」「宇治市内の施設で主に参加者同士の話し合いの時間を持つ交流企画」の2種類を行い、年6回の企画を全て計画通りに実施できました。

いずれの企画も、宇治市介護者(家族)の会の参画のもと実施し、出発から帰着までの付添い同行や交流時間の進行、参加者が抱える相談事へのアドバイスなどを担って頂きました。

広報の方法としては、市政だより等への掲載、チラシでの案内、公共施設での配架、福祉サービス関係事業者等を通じて介護者への案内や過去参加者へのダイレクトメール送付に加え、初の試みとして、市の長寿生きがい課の協力のもと、宇治市公式 LINE を使って告知を行いました。

令和5年度は、レクリエーション企画について、応募者が募集人数に満たない場合は、複数応募できる仕様にしたため、複数回参加される利用者が増加しました。年間を通じて参加者同士が何度も顔を合わせる機会ができ、本事業利用者間の親睦が深まっている様子がうかがえる結果となりました。

また、この取組みがきっかけとなり、参加者の中から、3名の方が宇治市介護者（家族）の会へ入会されました。

（宇治市在宅高齢者介護者リフレッシュ事業）

企画種別	回数	実施日	内容	定員	参加者数
交流企画	第1回	7月26日 (水)	茶づなで麻布を使った小物作り体験と参加者同士の交流	30	9
	第2回	12月14日 (木)	ふるさとたまご村工場見学と卵の栄養講座、参加者同士の交流会	30	17
	第3回	2月28日 (水)	茶室がある木幡のカフェ「縁庵」で茶道体験のあと、参加者同士の交流会	30	17
レクリエーション企画	第1回	5月30日 (火)	道の駅「アグリパーク竜王」提携の観光農園でのさくらんぼ狩り、買い物と交流	30	27
	第2回	9月25日 (月)	茨木市の園芸施設で交流を兼ねた見学と買い物、サービスエリアでの昼食	30	22
	第3回	10月25日 (水)	亀岡市の「夢コスモス園」を散策、道の駅「味夢の里」にて交流、昼食と買い物	30	25
				180	117



レクリエーション企画（コスモス園）
広大な園内をのんびり散策して、
気分のリフレッシュができました。



交流企画（茶道体験）
お茶の礼儀作法を皆で教わり、有意
義な交流会の時間が流れました。

7. 生活支援体制整備事業を通じての対話と協働による地域福祉の推進

目 標／地域課題の発掘と解決に向けた学び合いの場と取組みの創出

取組み／宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議（第1層）の運営

宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議（第1層）の構成団体との懇談や課題共有
小地域を基盤とした宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議（第2層）の拡充

平成29年度より宇治市から、宇治市生活支援体制整備事業を受託しています。地域における高齢者の生活支援体制の整備を推進するため、生活支援コーディネーター（以下、SC）業務ならびに協議体の設置をすすめています。第1層協議体戦略会議、生活支援体制整備事業事務局会議において、宇治市、宇治市福祉サービス公社（以下、公社）と共に情報共有と協議を行いながらすすめています。

当会にはSCを3名（第1層1名、1層及び2層兼務で3名）配置し、宇治市福祉サービス公社にも3名が配置されました。第2層の担当圏域は、当会のSCが6圏域、公社のSCが2圏域（中宇治・西宇治）を担当しています。

令和4年度より、テーマを「生きがい、社会参画」とし、高齢者だけでなく地域のあらゆる方が役割をもち、支え合いながら共に暮らしていける地域づくりを進めてきました。

第1層協議体では、住民が主体となって、テーマ別のグループでの話し合いを展開させていけるよう、「おもしろ会議の作法」とワークショップを実施しました。そこで、「空き店舗、空き家プロジェクト」が立ち上がりました。商店街の人や学生、様々な年齢の仲間と共に高齢者や地域が元気になることを考えるきっかけになりました。産業振興課とも連携をしています。

また、地域において「生活支援活動」を行う活動団体が増えていますが、活動を進める中で、困りごとや課題が出てきました。そこで、生活支援活動団体のネットワーク化を図り話し合う場を開催しました。地域における課題、活動における課題を各団体から伺うことができました。

第2層協議体では、槇島圏域にて「月夜バーガー」という新しい協議体が1ヶ所増えました。SCとしてマンション内の助け合い活動や地域のつながりについて考えていくために、マンションでの行事や活動、地域の出来事などを聞かせてもらいました。協議体として情報を共有し話し合う場ができたことで、マンション内に新しい風が吹き住民の社会参加につながりました。

一方で、第2層協議体として、地域の資源や仲間の輪を拡げ共に場をつくってきた「北槇 ODEN」が、第2層協議体から独立して、より住民主体での運営へと発展しました。また、第2層協議体の運営には、地域包括支援センターとの連携が欠かせません。

（事務局会議）

日 時	①令和5年 4月19日（水） 9:00～11:30 ②令和5年 9月 5日（火） 9:00～10:40 ③令和5年11月15日（水） 9:00～11:30	④令和6年 1月10日（水） 9:00～11:10 ⑤令和6年 3月 6日（水） 9:00～11:30
場 所	宇治市総合福祉会館	
参加者	SC6名（公社3名、当会3名）、宇治市3名、宇治社協1名	
目 的	生活支援体制整備事業委託業務及び協議体運営にかかわる事項の協議	
実施して	年度当初に生活支援体制整備事業の一年間の計画を立て、SCより各事業の実施報告、情報共有を行いました。この事務局会議を通じて、生活支援体制整備事業の遂行とそれぞれの業務分担の内容理解に努めました。	

(戦略会議)

日 時	①令和5年6月5日(月)9:00~11:00	②令和6年2月9日(金)10:00~12:00
場 所	①宇治市役所 ②宇治市総合福祉会館	
参加者	①②初田座長・山本副座長、SC6名(公社3名・当会3名)、宇治市3名 宇治社協1名	
目 的	「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」(第1層協議体)についての協議	
実施して	「宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議」(第1層協議体)の内容について協議を行いました。部会制の構築に向けて1回目は「おもしろ会議」を行いました。それを受け、「なにかやりたい人集まれ!」を実施し「空き店舗、空き家プロジェクト」が立ち上がりました。また「生活支援部会」も開催されるようになり継続して話し合っています。2回目は、「お出掛け研究所」の活動発表を受け、各活動団体、各構成員ができることを考える機会になればと話し合いました。	

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体)1回目)

日 時	令和5年8月4日(金)14:30~16:30	
場 所	宇治市総合福祉会館 3階 大広間	
参加者	構成員34名、地域福祉課1名、長寿生きがい課6名、公社SC3名、社協SC3名 合計47名	
目 的	多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進する場とし、市全域における支え合いの仕組みづくりについての検討	
内 容	<p>1.令和5年度の生活支援体制整備事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターの紹介 ・生活支援コーディネーターから令和5年度の活動について <p>2. 他市町村の活動事例及びおもしろ会議の作法とワークショップ</p> <p>講師:特定非営利活動法人「テダス」高橋 博樹氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろ会議の作法 ・ワークショップ <p>『気になること』のテーマにアイデア出し(発散)と、しばりこみ(収束)を繰り返し10個のテーマがあがりました</p>	
実施して	同じテーマ、同じ方向を向いて話し合える仲間と今後も話し合い、すぐには解決できないことでも話し合いを重ね、困りごとや気になる事を考えてくれる仲間がいることが地域にとって、とても大きな意味を持つと感じました。その"場"に私たちSCも寄り添っていきます。	

(宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(第1層協議体)2回目)

日 時	令和6年3月5日(火)10:00~12:00	
場 所	宇治市総合福祉会館3階 大広間	
参加者	構成員24名、市民協働推進課2名、長寿生きがい課4名、公社SC3名、社協SC3名、社協実習生1名	
目 的	多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組を推進する場とし、市全域における支え合いの仕組みづくりについて検討します。	
内 容	<p>1.令和5年度の生活支援体制整備事業の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各生活支援コーディネーターより令和5年度の活動報告 <p>2. 第2層協議体「お出掛け研究所」について</p> <p>(1)発表・報告者 黒川 宰 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こころの健康」「身体の健康」について 吉田拓郎『もう寝ます』の歌詞について ・話し合う場の名前が変り、現在の「お出掛け研究所」となりました。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・「住民の持っている車で住民を送迎し住民が運営をする」実現したら楽しいね。サロンとかレモンカフェ、わくわく長屋、町歩き、近隣観光、琵琶湖とかも見たいな。 ・3月14日(木)13時から、六地藏～久御山イオン往復モデルテストを実施。お出掛け者として利用できるのは、介護保険対象者。要支援1・2、事業対象者。お出掛け者1名に、研究員が2名付き、令和5年度3月に1回、6年度6月、10月にモデルテストを実施予定。計3回行い、アンケート分析をする。 <p>(2) 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ①活動発表の感想・疑問点などを出し合おう! ②自分たちが(個人として/法人として)できることを考えてみよう! ③実現するためにできそうなことはあるか、アイデアを出し合おう! <p>「こんなことコラボできるかも」「人材確保の方法など」</p>
実施して	<p>今回の会議では、「お出掛け研究所」の取組みについて伺い、自分たちとしてできることを考え、そのできることを実現するためにできそうなこと、アイデアを出し合ってもらいました。</p> <p>モデルテストを実施し、移動を通して「心の健康」について良い結果であったことを、第1層協議体メンバーに報告をして、情報共有をしていきます。今後も、それぞれの活動団体の特色を活かし、どんな先とコラボができるのか、どんなことが地域と共にできるのかなど、柔軟な発想で協議できる場づくりを行います。</p>



第1層協議体(第1回目)の様子



第1層協議体(第2回目)の様子

(生活支援部会(仮))

日 時	<ul style="list-style-type: none"> ①令和5年10月 6日(金) 10:00～11:30 ②令和5年12月15日(金) 10:00～11:30 ③令和6年 1月30日(火) 10:00～12:00 ④令和6年 3月21日(木) 14:00～16:00
場 所	①宇治市役所8階コミュニティカフェ ②③④宇治市総合福祉会館
目 的	活動団体どうしのネットワークづくり
内 容	お互いの活動を知り情報共有しネットワークをつなぎ課題解決に向けて話し合う
実施して	お互いの活動を知ることができ、各団体がつながっている企業や団体を知ることができています。

(空き店舗、空き家の有効活用プロジェクト)

日 時	①令和5年10月17日(火)10:00~11:30(何かやりたい人集まれ~!の会) ②令和5年11月17日(金)15:00~16:30(コアメンバー会議) ③令和5年12月18日(月)14:00~16:30(梅田北中津商店街視察) ④令和6年 3月15日(金)15:00~16:30(1回目)
場 所	①宇治市総合福祉会館②宇治市役所1階③中津商店街④宇治市総合福祉会館
目 的	高齢者が外出できるまちづくりを構築し介護予防につなげ、商店街や空き店舗の活用から地域活性化へとつなげる。
内 容	商店街や空き店舗、空き家を有効活用し、どんなまちにしていくのかイメージを共有。
実施して	様々な年齢層、商店街の人、人が集まる場をつくりたい、商店街を盛り上げたい人などが集まり、それぞれの思いを共有し、元気なまちづくりを目指す方向になってきました。

【宇治市地域の支え合い仕組みづくり会議(地域版)(第2層協議体)の取組み】

槇島圏域(やまびこ~紫ヶ丘を住みやすくする会~)

日 時	①令和5年4月26日(水)14:00~15:30 ②令和5年5月24日(水)14:00~15:30 ③令和5年6月14日(水)14:00~15:30 ④令和5年7月19日(水)14:00~15:30 ⑤令和5年8月30日(水)14:00~15:30 ⑥令和5年9月28日(木)14:00~15:30	⑦令和5年10月25日(水)14:00~15:30 ⑧令和5年11月15日(水)14:00~15:30 ⑨令和5年12月 6日(水)14:00~15:30 ⑩令和6年 1月31日(水)14:00~15:30 ⑪令和6年 2月14日(水)14:00~15:30 ⑫令和6年 3月27日(水)14:00~15:30
場 所	紫ヶ丘集会所	
目 的	紫ヶ丘地域の困りごとなどを話し合う機会をもち、住民自治による福祉活動への機運を高める	
参加者	紫ヶ丘地域の住民、槇島地域包括支援センター1名、交通政策課2名、・長寿生きがい課2名、 当会 SC2 名	
内 容	・宇治徳洲会病院の送迎バスの一部利用が8月より運行開始 ・7月22日(土)より、毎週土曜日、日曜日にラジオ体操を公園で実施 ・12月2日(土)「みんなのやまびこまつり」実施 ・1月15日(月)に「巨椋の郷」を見学	
実施して	地域のつながりの大切さを感じラジオ体操を開始。子どもも参加しやすい土日に開催。徳洲会病院の送迎バスは、利用者が約2倍に増え、顔がつながる関係性も生まれています。「みんなのやまびこまつり」では、地域からたくさんの方が参加がありました。これをきっかけに集会所を使つての居場所づくりを考えていこうとなりました。	

北槇島圏域(北槇 ODEN)

日 時	①令和5年 4月17日(月)15:00~16:30 ②令和5年 5月15日(月)15:00~16:30 ③令和5年 6月19日(月)15:00~16:30 ④令和5年 8月21日(月)15:00~16:30 ⑤令和5年10月16日(月)15:00~16:30	⑥令和5年11月20日(月)15:00~16:30 ⑦令和5年12月18日(月)15:00~16:30 ⑧令和6年 1月15日(月)15:00~16:30 ⑨令和6年 2月19日(月)15:00~16:30 ⑩令和6年 3月18日(月)15:00~16:30
場 所	グリーントウン槇島中央集会所	

参加者	グリーントウン榎島地域の住民、都市再生機構（UR）3名、㈱花駒1名、京都文教大学2名、榎島地域包括支援センター1名、グループホーム1名、デイサービス1名、長寿生きがい課2名、当会 SC2名
目的	グリーントウン榎島地域で、地域の困りごとなどを話し合う機会をもち、住民自治による福祉活動への機運を高める
内容	地域のつながりの大切さや住民の思いを大切にするために、『グリーンカフェ』を令和4年12月12日からスタートさせ、月に1回開催を継続。できる限り多くの方が参加できるように、9月に活動場所を9棟集会所から中央集会所へ移動した。
グリーンカフェ	毎月第3月曜日 13:00～15:00 合計12回開催
実施して	「グリーンカフェ」が毎月の積み重ねから住民の大切な場となっています。話し合いを重ね、「グリーンカフェ」という形ができた目的のひとつが達成。令和6年度からは、住民だけの運営が開始されます。北榎 ODEN は、期間を置き必要に応じて開催して行きます。

（大山崎町社会福祉協議会へ講師派遣）

日時	令和6年2月28日（水）13:30～16:00
場所	大山崎町公民館別館2階 第1研修室
参加者	助け愛隊サポーター養成講座受講者 15名 大山崎町健康福祉部健康課高齢介護係・大山崎町社協会長・大山崎町社協事務局長 大山崎町地域包括支援センター・大山崎町 SC 富田・北榎 ODEN 中村 隆子氏 宇治市社協 SC 松尾
目的	助け合い隊サポーター養成講座の講師派遣
内容	助け合い隊サポーター養成講座において、北榎 ODEN の活動とその他地域活動について
実施して	中村氏が、自分のやってきた活動について振り返られ、地域に場があることやお互いに気にかける事の大切さを伝えられた。SC として、活動者が自分の活動を人に伝える機会を作るとも、活動者自身のモチベーションを高めるために大切であることを学んだ。

東宇治北圏域（北畠ラルゴ木幡）※北畠懇談会（仮称）全体ミーティング

日時	①令和5年 4月21日（金）10:00～11:30 ②令和5年 5月19日（金）10:00～11:30 ③令和5年 6月16日（金）10:00～11:30 ④令和5年 7月21日（金）10:00～11:30 ⑤令和5年 8月18日（金）10:00～11:30 ⑥令和5年 9月15日（金）10:00～12:00 （ぶらきらこパート3） ⑦令和5年10月20日（金）10:00～11:30	⑧令和5年11月17日（金）10:00～12:00 （認知症勉強会） ⑨令和5年12月15日（金）14:00～15:30 ⑩令和6年 1月19日（金）10:00～12:00 ⑪令和6年 2月16日（金）10:00～12:00 （スマホ相談会） ⑫令和6年 3月15日（金）10:00～12:00
場所	木幡北畠集会所	
目的	木幡北畠地域で、地域の困りごとなどを話し合い、住民自治による福祉活動の機運を高める	
参加者	北畠地域の住民、東宇治北地域包括支援センター3名、長寿生きがい課2名、社協1名 当会 SC2名	
内容	地域住民の強みや宇治の観光、認知症の勉強会などを通じた地域づくりを目指す。	
実施して	認知症になっても安心して暮らすために、高齢者や子どもの見守りができる地域づくりの大切さを感じ、つながる場が大切だという声が上がってきました。	



グリーンカフェでのご近所交流
(北楨 ODEN)



北島地域での認知症勉強会
(北島ラルゴ木幡)

東宇治北圏域 (お出掛け研究所(旧パワーアップこわた))

日 時	①令和5年 6月23日(金) 14:00~16:00 ②令和5年 7月25日(火) 14:00~16:00 ③令和5年 9月 7日(木) 14:00~16:00 ④令和5年10月 5日(木) 14:00~16:00 ⑤令和5年11月16日(木) 14:00~16:00	⑥令和5年12月12日(火) 14:00~16:00 ⑦令和6年 1月23日(火) 14:00~16:00 ⑧令和6年 2月29日(木) 14:00~16:00 ⑨令和6年 3月14日(木) 13:00~ (テスト走行 イオン久御山)
場 所	①②木幡北島集会所 ③④⑤⑥⑦⑧ハーモニーやまはた ⑨イオン久御山	
参加者	木幡区3名、きんと雲2名、ゆう輪蔵ぶ1名、健康長寿サポーター2名、長寿生きがい課3名、東宇治北包括支援センター、東宇治南地域包括支援センター、社協 SC3名	
目 的	木幡区を中心に地域の困りごとなどを話し合い、住民自治による福祉活動への機運を高める。	
内 容	移動支援を軸に外出の大切さ、社会参加の大切さを研究員の皆さんと確認しながら進めて来ました。テスト走行に向けての話し合いを実施しました。 テスト走行で実施するアンケート調査の協議を1月19日に市役所にて黒川氏と行き、お出掛け者、運転者へのアンケートを作成しました。 3月14日にモデルテストを実施しました。アンケートを積み重ね分析を行っていきます。	
実施して	3ヶ月間に渡り、テスト走行に向けて、行先、アンケート内容、何が必要なのか等を検討しました。テスト走行を実施する中で、心の健康について、運転者、お出掛け者の双方にとっても良い評価が出ていました。	

楨島圏域 (月夜バーガー)

日 時	①令和5年 9月19日(火) 14:00~15:30 ②令和5年10月26日(木) 14:00~15:30 ③令和6年 1月24日(水) 14:00~15:30
場 所	朝日プラザ宇治 集会室
目 的	高齢になっても安心できる地域づくりやひとりひとりが尊厳を持って暮らせるように、マンション内での支え合いの取組みとともに、地域の方々と支え合う仕組みを皆さんと考える。
内 容	小地域ケア会議にて課題を抽出し、その課題に対して、朝日プラザ宇治で話し合いの場が始まりました。地域での現状を教えてもらい、地域課題の解決に向けて話し合っています。
実施して	マンション内の現状を知ることができています。管理組合で助け合い活動の実施を検討されています。令和6年度は、管理組合の理事を増やし、助け合いを進めて行かれる予定です。

(南宇治圏域)

南宇治地域包括支援センター(以後、包括)主催の、健康・介護相談に参加をして、地域の情報を把握しています。西大久保団地内にある高齢者サロンにも、包括と共に訪問しています。活動の相談を受けており、さわやか福祉財団の助成金申請等のサポートも行っています。

(北宇治圏域、南部・三室戸圏域)

小地域ケア会議や地域包括支援センターとの連携を中心として、まずは地域包括支援センターとの関係づくりを重点的に行った。

(小地域ケア会議への参加)

圏域	日時	場所	参加者
槇島	令和5年 6月30日(金) 14:00~16:00	朝日プラザマンション	2名
南部・三室戸	令和5年 8月 9日(水) 11:00~12:10 (事前協議)	宇治市総合福祉会館	2名
北宇治	令和5年10月11日(水) 14:00~16:00	北宇治地域包括支援センター	1名
南部・三室戸	令和5年10月24日(火) 14:00~16:00	宇治明星園特養 地域交流スペース	2名
平盛	令和5年11月 1日(水) 10:00~12:00	平盛デイホーム	1名
東宇治北	令和5年11月30日(木) 14:00~16:00	御蔵山南集会所	1名
参加して	住民とともに、地域のことを考えていく SC について、地域住民はもちろんのこと、地域包括支援センターや関係機関にも、SC の役割をもっと知ってもらうことが課題です。		

(自立支援型ケア会議への参加)

圏域	日時	場所	参加者
東宇治北・東宇治南	令和5年 5月10日(水) 14:00~16:30	宇治あんしん館	1名
南部三室戸・南宇治	令和5年 6月21日(水) 14:00~16:00	宇治市役所 703	1名
北宇治・東宇治南	令和5年 7月12日(水) 14:00~16:00	宇治あんしん館	1名
東宇治北・槇島	令和5年 9月13日(水) 14:00~16:00	宇治あんしん館	1名
南部三室戸・南宇治	令和5年10月18日(水) 14:00~16:00	宇治あんしん館	1名
東宇治南・北宇治	令和5年11月 8日(水) 14:00~16:00	宇治あんしん館	1名
槇島・東宇治北	令和6年 1月10日(水) 14:00~16:00	宇治あんしん館	1名
南宇治・南部三室戸	令和6年 2月21日(水) 14:00~16:00	宇治市役所 703	1名
東宇治南・北宇治	令和6年 3月13日(水) 14:00~16:00	宇治あんしん館	1名
参加して	自立支援型ケア会議に参加し、専門職の多様な視点でのケース検討の場に参加 SC として地域活動を支える視点からの意見を伝えました。		

（「気かけ合う地域づくり」勉強会の実施）

講演先	日時	場所
西木幡自治会	令和5年6月 6日(火) 10:00~12:30	西木幡集会所
高砂会(御蔵山喜老会)	令和5年6月23日(金) 14:00~15:00	御蔵山集会所
緑ヶ原自治会	令和5年7月 1日(土) 10:00~11:45	緑ヶ原自治会集会所
東宇治南 脳活性化教室 「あつまれ元気の森」	①令和5年 8月8日(火) 14:00~15:30 ②令和5年9月20日(水) 14:00~15:30 ③令和6年2月13日(火) 14:00~15:30 ④令和6年2月19日(火) 14:00~15:30	①木幡公民館 ②西岡屋集会所 ③木幡公民館 ④三番割集会所
槇島さろん連絡会	令和6年3月25日(月) 10:00~12:00	槇島地域福祉センター
実施して	地域づくりに関するクイズや、「生きがい、やりがい」をテーマにお話ししました。宇治市内での活動事例を参加者の皆さんにお伝えし、ひとりひとりの「生きがい、やりがい」が相互関係にあることへの気付きとなりました。	

（研修会等への参加）

研修名	日程	場所	参加者
京都府内 SC 情報交換会	令和5年 5月16日(火)	QUESTION 京都4階 ROOM	3名
おもしろ会議プロジェクト	令和5年 5月23日(火)	宇治市役所	3名
第3回地域包括支援センター職員資質 向上研修	令和5年 6月22日(木)	宇治市役所	2名
近畿ブロック地域包括ケア推進セミナー	令和5年 7月 4日(火)	宇治市総合福祉会館 (オンライン)	3名
SC 初任者研修	令和5年 7月 6日(木)	京都府自治会館	1名
地域福祉活動研修会	令和5年 7月18日(火)	久御山町社協	2名
グラフィック・ファシリテーション基礎研修	令和5年 9月12日(火)	理容 アズマ跡	3名
シニアeスポーツ健康ゲーム体験会	令和5年 9月15日(金)	MOMO テラス	1名
グラフィック・ファシリテーション基礎研修	令和5年10月10日(火)	理容 アズマ跡	3名
はじめよう!セカンドライフ 第2講	令和5年10月27日(金)	宇治市生涯学習センター	1名
みんながつながる情報交換会 vol.1	令和5年10月31日(火)	京都府医師会館	2名
社協オンラインサロン in 京都	令和5年11月10日(金)	宇治市総合福祉会館	1名
ささえあいのまちづくりフォーラム	令和5年11月24日(金)	久御山町役場議会棟	1名
生活支援体制整備事業推進研修会	令和5年12月11日(月)	京都府医師会館	2名
生活支援体制整備事業視察研修会	令和5年12月16日(土)	地域福祉センター希望 の家南側駐車場	1名
わいがや大座談会	令和6年 2月15日(木)	Zoom	1名
そろそろ2040年の話をしようか?~多世 代での共働と持続可能な地域の姿とは~	令和6年 2月22日(木)	Zoom	1名
みんながつながる情報交換会	令和6年 3月 7日(木)	サンガスタジアム	3名
社協オンラインサロン in 京都	令和6年 3月11日(月)	Zoom	1名
生活支援コーディネーター研究協議会	令和6年 3月25日(月)	Zoom	1名
みんながつながる情報交換会振り返り と打合せ	令和6年 3月29日(金)	Zoom	1名

8. 地域つながり活動支援事業への取組み

目 標／人と人との関わり方が変化している中での地域課題の変容に応じた取組みへの支援を通じて、地域共生社会の実現に努めます。

取組み／多様化する地域課題の解決に寄与する事業への助成

平成30年度から続く6年目の事業として、宇治市の補助を受け、「宇治市福祉未来基金 地域共生社会推進事業（地域共生パイロット事業と公募型地域福祉活動支援事業）」を推進し、福祉課題解決の一助としました。

このうち、「公募型地域福祉活動支援助成金」は、「地域つながり活動支援事業」として、①子どもの貧困、②ひきこもり、③地域福祉活動の担い手確保を対象（分類）とする事業に対し、助成金を交付しました。居場所を求める点で共通しており、そのなかで他者に思いを寄せる活動が求められていました。

また、令和3年度より、宇治ボランティア活動センターの協力のもと、大学生からのボランティア相談をきっかけに、大学生が自由に集まり、おしゃべりしたり、共にボランティア活動をしたり、自分たちでやりたいことを考えながら、地域に大学生の力を生かしていける場づくりを継続しています。

(1) 宇治市福祉未来基金 地域共生社会推進事業「地域つながり活動支援事業」

(交付実績) (合計 1,047,000 円)

(単位:円)

団体名	事業名称	申請内容	交付額
NPO 法人すまいるりんく	夏キャンプ	夏キャンプ(るり溪少年自然の家)	100,000
京都府断酒平安会 大久保支部	宇治市酒害相談事業	酒害相談会・京都府アルコールセミナーの実施	100,000
宇治市地域福祉研究所	学校 de カフェ「しゃべり場」	学校 de カフェ講演・サポーター勉強会	60,000
青年の社会参加を応援 する会 実のり	仕事でつながる 仲間づくり	パソコンを使った便箋づくり、畳縁のカードケース他の製作、着物市・手作り市・駄菓子屋での販売など	87,000
西大久保学区福祉委員会	地域福祉活動の ネットワーク構築	地域への広報を目的とした学区福祉委員会活動の撮影企画・編集	100,000
Kinarico	人形劇、クリスマスイベント	たくたく堂による人形劇鑑賞・工作、丘の上のんびりこども食堂にてクリスマス特別企画	100,000
(一財)宇治市連合母子会	ほっこりアフタヌーンティー	お菓子・軽食を食べながら交流	100,000
(特非)こころのはな	とけこみ居場所事業	将棋、アロマ、マンダラ、墨絵等	100,000
(特非) 絆	子ども食堂 プログラミング教室	こども食堂:月末の日曜日に実施 プログラミング教室:教材準備・地域学校協働活動チーフコーディネーター	100,000
南部学区福祉推進委員会	管外研修	「滋賀県守山市びわこみみの里」への研修	100,000
ひろのこども食堂	ひろのこども食堂	月1回、主に平日の夕方に食堂形式での食事、学習支援、パパ&ママカフェ、遊びスペースの開放、フードパントリーの実施	100,000

(2) 大学生のおしゃべりの場「yooSely_rabbits(ゆーずりーらびっと)」の開催

日 時	概ね月1回、平日18時～20時(不定期) 年間18回開催(スマホ教室・ボランティア参加日等を含む)
場 所	総合福祉会館
目 的	大学生が自由に集い、おしゃべりできる場をつくり、大学生同士のつながりづくりや、大学生の力を生かしたボランティア活動や地域福祉活動について考える場とする。
参加者	当会にボランティア相談を受けた大学生や取組みに関心をもった大学生(3名)、当会実習生、宇治ボランティア活動センター
内 容	・大学生生活やボランティア活動などの情報共有 ・自分たちにできるボランティア活動や今後取り組みたいことについての話し合い ・ボランティア活動やお手伝いへの参加、他団体の協力によるイベントの企画運営
実施して	大学生がおしゃべりできる場所と時間を設けています。人とつながる機会を望んでいる学生や自分にできるボランティア活動をやってみたいという学生など、それぞれ違う大学の学生が参加しています。おしゃべりの内容や何をしたいかは参加した大学生が主体的に決めます。福祉施設からの依頼による動画作成や、SNS を通じてつながりができた団体との協働によるスマホ教室等を実施しました。 当会として、今後も大学生が主体的に考え、行動につなげていけるようサポートを行います。

9. 住民参加型による一般介護予防事業介護予防普及啓発事業の展開と地域づくり

補助
委託

目 標／誰もが健康寿命を伸ばし、地域で孤立せず暮らしていけるよう、健康づくりを介しての住民参加の拡充を図ります。

取組み／週1回、20小学校区での介護予防普及啓発事業の取組み実施
健康づくりに関するボランティア研修会の実施

一般介護予防事業介護予防普及啓発事業(地域参加型B型リハビリ教室)(以下「Bリハ」)を地域住民とともに運営し、高齢者を中心にした地域住民の社会参加の機会の創出を行っています。新型コロナ等の影響はほぼなくなり、年間を通じて教室開催ができました。ただ、高齢者が多く来訪する機会ということもあり、マスク着用や茶話の時間のあり方には十分に留意して開催しました。

令和4年度同様、夏季は熱中症警戒アラートが京都府に発表された際には当該日の教室開催を休止しました。「みおろど健康教室」(三室戸学区)では、通常午後で開催している教室を7～9月は午前で開催していただきました。暑くなる前に開催する試行は、教室に参加する利用者にもボランティアにも好評でした。

いくつかの教室からは、新たなボランティアや利用者の獲得が課題だと言う声がありました。地域住民に認知してもらうという観点から、2か所の教室で地域住民にもBリハのことを知ってもらう取組みを実施しました。「ニコニコ菟道」(菟道学区)では、地域で活動するヨガのインストラクターの協力のもと、ヨガの時間を提供しました。また、「スマイル西小倉」(西小倉学区)では、京都フィルハーモニー室内合奏団の力を借りて演奏会を開催しました。いずれの取組みも近隣住民が自由に来訪・参加できる時間とし、教室の参加者と同じ時間を過ごしながら、毎週開催しているBリハを知っていただく機会となりました。2か所の教室では、新たにボランティアとして参加いただく人が数名生まれました。

介護予防に関するボランティア研修会は、認知機能と身体機能の両面を一緒に鍛えることができる「コグニサイズ」をテーマにした講座を西・東のエリアで各2回実施しました。

(介護予防普及啓発事業【地域参加型 B 型リハビリ教室】開催状況)

教室名	小学校区	実施回数 (回)	利用者 実人数(名)	利用者のべ 人数(名)	ボランティア 実人数(名)	ボランティア のべ人数(名)
ほっこりくらぶ	神明	41	10	281	21	654
さわやかくらぶ	御蔵山	42	8	251	9	228
すこやか広野	大久保	32	7	197	23	324
ニコニコ菟道	菟道	41	9	254	14	436
あったか平盛	平盛	42	13	347	11	283
のんびりくらぶ	西大久保	34	4	88	17	334
みむろど健康教室	三室戸	41	10	336	29	396
なごみ岡屋	岡屋	39	8	223	8	241
ホット大開	大開	42	7	222	12	222
元気おうばく	宇治	43	4	115	17	518
きらきら菟ニクラブ	菟道第二	42	7	147	17	535
ハスの実くらぶ	小倉	39	6	168	19	506
お茶の実クラブ	木幡	39	6	166	18	419
しらさぎクラブ	南小倉	41	10	203	17	470
ふれあい北榎	北榎島	46	11	246	12	423
榎島あすなろ会	榎島	41	8	226	6	197
ぬくもり伊勢田	伊勢田	39	8	189	18	370
南部てんとう虫教室	南部	39	11	344	14	442
スマイル西小倉	西小倉	40	7	178	11	362
フラワー北小倉	北小倉	39	5	130	9	269
合計		802	159	4,311	302	7,629

(宇治市内の介護予防普及啓発事業【地域参加型 B 型リハビリ教室】ののべ人数の推移)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実施回数(回)	576	792	802
利用者のべ人数(名)	2,931	3,921	4,311
ボランティアのべ人数(名)	5,411	7,766	7,629

(ボランティア研修会 開催状況)

日時	①令和5年 9月29日(金) 10:00~12:00 ②令和5年 9月29日(金) 14:00~16:00 ③令和5年10月31日(火) 10:00~12:00	④令和5年10月31日(火) 14:00~16:00 ⑤令和5年11月30日(木) 10:00~12:00
場所	①②城南勤労者福祉会館 ③④茶づな ⑤宇治市総合福祉会館	
目的	凝り固まったカラダとアタマとココロをほぐし、不調の慢性化を予防し健康維持・増進することを目的に、コグニサイズを基調とした研修会を展開 地域での介護予防に資する自発的な活動の普及啓発と住民の活動の育成 広く市民に参加を促し、地域の福祉活動や介護予防教室を知るきっかけを提供	
参加者	①33名 ②16名 ③37名 ④36名 ⑤18名	
内容	講師：ノーザンライツ・コーポレーション 浅野 清心 氏 ①~④コグニサイズで楽しく体操 ⑤サロンのええとこ見つけ隊! ※兼サロン研修会	
実施して	介護予防の取組みに携わるボランティアのスキルアップや自身の健康維持・向上が図れた内容であったと考えます。今回、福祉会館以外に西エリア・東エリアでも開催しました。近隣地域から多く参加があり参加しやすいと好評でした。研修内容を B リハのプログラムや学区福祉委員会でのつどいで実施されるなど、地域での浸透につながりました。B リハでコグニサイズや筋トレ・ストレッチをすることで健康寿命を延ばすことにつながると考えています。また、これまでボランティア活動に参加されていない人たちにも介護予防の大切さと地域での取り組みを知っていただける機会となりました。参加者に B リハの紹介ができたことにより、早々に教室を見学されて現在、教室のボランティアとして活躍される方もあります。	



「スマイル西小倉」での演奏会。70名を超える地域住民の参加がありました。



令和4年度に引き続き、ボランティア研修会ではコグニサイズを基調とした内容で実施

10. 若年層への福祉教育の実施

補助
委託

目 標／京都文教大学の授業を通じて、ボランティア活動への参加のすそ野を広げます。

取組み／ボランティア活動団体や福祉施設との協働による京都文教大学ボランティア演習を通じた、大学生のボランティア活動の受入れ

京都文教大学の科目である「地域ボランティア演習」に関して業務提携を行い、学生のボランティア活動促進に努めました。「地域ボランティア演習」では、学校支援コース、寺院ボランティアコース、社会福祉支援コースがあり、当会は社会福祉支援コースを担っています。

春学期、秋学期ともに市内各所の施設・団体等のご協力を得ながら実習受入の調整を行いました。

授業の履修理由は様々ですが、中には「自分が中学生の時に学習支援のサポートをもらったから、今度は自分が教えたい」という生徒もありました。また、実習後の報告やレポートからは、「ボランティアは誰かのためにするものだが、「助けてい」という自分の思いだけで盛り上がるのではなく、本当に必要としていることを見極めて行動することが大切である」という意見など、実習したからこそ見える一面に気づけたという声もありました。受入れ団体からは「外部の人が関わってくれることが利用者や施設の仲間の刺激になっている」など、今後も受入したいとの声もいただいています。

(京都文教大学ボランティア演習の演習実施状況)

団体・施設名	春学期 (4月12日～7月26日)	秋学期 (9月27日～1月17日)
	受入れ人数(定員 20名)	
特定非営利活動法人就労ネットうじみつくすはあつ	3	3
ワークセンター宇治作業所	2	1
特定非営利活動法人ころのはな	3	4
宇治市要約筆記サークル「エコー」	2	4
宇治ボランティア活動センター	1	2
宇治市社会福祉協議会 (学習支援)	4	3
〃 (Bタイプリハビリ)	3	3
合 計	18	20

赤い羽根 補助委託 歳末募金 利用負担

11. 福祉関係者とともに宇治市の福祉の機運を高めるための宇治福祉のつどいの開催

目 標／福祉活動参加者への敬意を表し、また、地域課題の提起を図ります。

取組み／長年、地域福祉やボランティア活動に貢献されてきた方の表彰

福祉関係者とともに、地域課題の共有を図る講演会等の実施

令和5年度は、表彰式典と講演会の2部制で開催しました。地域福祉活動に長年ご尽力いただいた個人や団体に対して、市内の福祉関係者が集い、その功績を称える場となりました。

第2部では、「源氏物語・宇治十帖から読む『物語の地形』」をテーマに講演会を行いました。



表彰式典及び講演会の様子

(宇治福祉のつどい)

日時	令和5年11月14日(火)10:00~12:00
場所	パルティール京都
参加者	会長表彰・感謝状贈呈者 表彰状受賞者42名、感謝状贈呈者 団体1件、個人4名 参加者179名(受賞者33名、来賓13名、一般102名、理事・監事14名、評議員17名)
目的	福祉関係者が集い、地域福祉推進への決意を新たにするため
内容	第1部【福祉功労者表彰・感謝状贈呈式典】 第2部【講演会】「源氏物語・宇治十帖から読む『物語の地形』」 (講師)京都高低差崖会 崖長 梅林 秀行氏(京都ノートルダム女子大学非常勤講師)
実施して	日頃活動されている皆さんや当会への寄附者、自動販売機の設置協力者への感謝を表すことと、地域福祉推進への気持ちを新たにするを大切にしています。 第2部の講演会では、「源氏物語・宇治十帖から読む『物語の地形』」というテーマで、地域共生社会の実現に向けた視点を含めて講演会を行いました。平安時代から現代まで、時代は違っても同じような「生きづらさ」があることを学び、改めて日頃の活動が生きづらさのある人々の生活の支えになっていることを再確認する機会となりました。

12. 福祉専門職や福祉事業に関わる人たち、社会福祉法人等との連携強化



目標／社会福祉法人等と地域課題や法人を取り巻く課題を共有し、解決策を探ります。

取組み／地域住民と社会福祉法人や福祉専門職の持つ力や資源を生かし、対話と協働による地域課題の把握や解決

宇治市福祉サービス公社と取組んできたプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため合同勉強会を中止して以降、取組みには至っていません。

令和5年度は、地域包括支援センター受託法人が中心となって「社会福祉法人等連携協議会(仮)」の立ち上げにかかりました。地域包括支援センターだけでなく、どの法人、種別も人材に対する課題を抱えており、そのことを全体課題として宇治で取り組めないかというものです。令和6年7月にはキックオフ企画としての講演会等を企画しており、参加呼びかけ等を行う予定です。



13. 他機関との連携による子育て世代への働きかけと地域福祉活動へのきっかけづくり

目標／NPO 法人等と連携し当事者の視点を大切にされた子育て世代とのつながりづくりと子育てを通じて参画できる地域福祉活動の場づくりを進めます。

取組み／NPO 法人等と連携した子育て支援事業の展開
中学生と赤ちゃんのふれあい交流事業

NPO 法人との連携による子育て中の親子の出会いの場、相談の場づくりとして、1歳になるまでの子どもを持つ親を対象に実施しました。

(1) 「赤ちゃんサロン・広場・パーク」の実施(「NPO 法人子育てを楽しむ会」と共催)

参加者の気持ちをほぐすプログラムの後、交流を促すフリートークの時間を設けるほか、グループでのおしゃべりタイムを設け、参加者が自然と交流しやすくなるような工夫をしています。「月齢が近い者同士

で集まれるので参加しやすい」という声があります。一方で、赤ちゃんサロンの参加者はコロナ禍以降でもほぼ横ばいとなっていることから、令和6年度は、月の開催区分を「赤ちゃんサロン」「赤ちゃん広場」の2回として、一定の人数規模を想定した交流の場づくりを進めることとなりました。

(赤ちゃんサロン・広場・パーク開催実績)

名称	赤ちゃんサロン	赤ちゃん広場	赤ちゃんパーク
対象 (市内在住に限る)	妊婦および1ヶ月から4ヶ月の赤ちゃんとお親	5ヶ月から8ヶ月の赤ちゃんとお親	9ヶ月から12ヶ月の赤ちゃんとお親
日時	原則 毎月第4木曜日	原則 毎月第1金曜日	原則 毎月第3金曜日
	10:00~12:00		
実施場所/参加費	宇治市総合福祉会館/参加費 200円		
実施回数	10回	9回 (6月は大雨警報で中止)	10回
参加状況	51組(102名)	84組(168名)	84組(168名)

※参加状況にはスタッフ、保育サポーター数は含まない

(赤ちゃんサロン・広場・パーク参加者の推移)

(単位:組)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
赤ちゃんサロン	42	45	51
赤ちゃん広場	49	88	84
赤ちゃんパーク	52	85	84
合計	143	218	219



赤ちゃんサロン・広場・パークの様子

(2)「おしゃべりキャッチボール」の実施(「NPO 法人子育てを楽しむ会」へ委託)

令和5年度は、「子育てや子の発達に不安を感じている保護者」「多胎児を育てる保護者」を対象に、助産師・保健師の協力を得て実施しました。赤ちゃんパークの卒業後の次の参加先となっていたり、当事者同士の交流を行うことで、情報の交換や悩みの共感などができ、参加者のリフレッシュの時間となっています。当会としても、子育てに悩みを持つ方の声が聴ける貴重な機会となっています。

令和6年度からは、「多胎児を育てる保護者」の参加者数が減少しているため、「子育て相談の日」に含め一本化することになりました。

(おしゃべりキャッチボール開催状況)

テーマ	子育てや子の発達に不安を感じる保護者	多胎児の保護者
対象	市民全般	
日時 10:00~ 11:30	① 5月11日(木) ⑤12月 7日(木) ② 7月 6日(木) ⑥ 2月 8日(木) ③10月12日(木) ⑦ 3月 7日(木) ④11月 2日(木)	① 6月 8日(木) ② 8月 3日(木) ③ 9月14日(木)
実施場所・参加費	宇治市総合福祉会館	
親子数 (参加者数)	①4組(8名)②2組(5名)③6組(15名) ④3組(7名)⑤3組(6名)⑥6組(13名) ⑦5組(10名)	①1組(3名) ②1組(3名) ③1組(3名)

(3) 子育てサークルなどへの情報提供および広報

子育てサークルについての相談は、宇治市子育て支援基幹センターが窓口となっているため、当会に相談があった際には、子育て支援基幹センターへつないでいます。一方で、子育てサロンの運営についての問い合わせや調整は、当会にて行っています。また、宇治市総合福祉会館に常設している子育て情報コーナーで市民向けの各種情報を提供しました。

宇治市発行の子育て情報誌では、子育てサークルや子育てに関する取り組みをされている団体の情報が掲載されるよう、各団体と連絡を取り、活動状況や記載内容の確認と調整を行っています。

(4) 中学生と赤ちゃんの交流事業への協力

中学校の主催により、乳児から2歳頃までの赤ちゃんと親が「赤ちゃんボランティア」として中学校を訪れ、中学3年生と交流をはかる事業です。当会はボランティア募集、連絡調整、当日のサポート、実施後のフォローを行いました。令和2年度から4年度はコロナ禍での開催が見合わせとなっていました。5年度は新型コロナウイルス感染症が5類移行されたことにより、3年ぶりの開催となりました。中学生が実際に赤ちゃんを抱き、命の重みや温かさを肌で感じ、子育て中の親の思いを聞く中で、自分自身も大切に育てられたことや命の尊さを学びました。参加した保護者にとっても、“ボランティア”を身近に感じてもらうきっかけとなっています。「赤ちゃんボランティア」の申込み方法については、インターネットでの申込みやインスタグラムでのDM 申込など複数の方法を新たに取り入れました。

(東宇治中学校)

実施日	令和5年12月5日(火)、6日(水)、7日(木)
実施場所	東宇治中学校
対象	東宇治中学校3年生(5クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会、岡屋・菟道地区民生児童委員協議会、PTA
赤ちゃんボランティア数	のべ88組(実数42組)
実施して	当時、赤ちゃんとして参加をした生徒が授業を受け、授業を受けていた生徒が母親として赤ちゃんを連れて参加をされました。宇治市で最初に赤ちゃん交流が始まった学校として、令和6年度は、実施から20年という節目を迎えることとなります。

(宇治中学校)

実施日	令和5年10月23日(月)、25日(水)
実施場所	宇治中学校
対象	宇治中学校3年生(5クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会、琵琶・神明・宇治地区民生児童委員協議会
赤ちゃんボランティア数	のべ99組(実数51組)
実施して	授業への事前準備にあたり、生徒が手作りで作ったスポンジのおもちゃを準備してくれました。当日は、そのおもちゃで赤ちゃんたちとコミュニケーションをする姿が見られました。授業の終わりに、お土産として受け取った保護者からも「うれしい」という声が挙がりました。

(黄檗中学校)

実施日	令和5年10月5日(木)
実施場所	黄檗中学校
対象	黄檗中学校3年生(3クラス)
協力者	NPO 法人子育てを楽しむ会、木幡・東宇治地区民生児童委員協議会
赤ちゃんボランティア数	のべ66組(実数41組)
実施して	コロナ禍以降、赤ちゃん交流事業を再開した最初の中学校となりました。スタッフも久々の開催に緊張していましたが、「再開を待っていたよ」と言ってくれる保護者も多く、多くの方の心に残っている事業となっていることを改めて教えていただいた時間となりました。

14. 高齢者の健康と生きがいづくりを通じた老人福祉センターの運営

補助
委託

目 標／高齢者の健康や生きがいづくりのための社会参加の機会を創出します。

取組み／宇治市老人センターサークル協議会(USK)事務局の運営

館外研修、クリーン運動等の実施、サークルの発表の場の提供

(老人福祉センターサークル数の推移)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
サークル数	17	17	17
登録者数	331	285	267

(シルバーウエルネス舞台発表大会・展示発表大会開催の支援)

日 時	①舞台発表大会:令和5年9月20日(火)10:30~15:30 ②展示発表大会:令和5年9月30日(土)13:00~16:00 10月 1日(日) 9:30~15:00
場 所	①宇治市文化センター小ホール ②宇治市総合福祉会館
目 的	サークル発表及び作品の展示と交流
内 容	①合唱・カラオケ・民謡・謡曲・詩吟・三味線・大正琴・社交ダンスハーモニカ・ナツメロ ②華道・茶道・書道・陶芸・ちぎり絵

(当会活動への協力状況)

(単位:円)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
団体会費	29,200	26,500	25,200
ふれあい基金	36,383	46,506	38,650
共同募金	55,200	53,000	51,000

USKでは、広く社会福祉へ貢献することを目的に、サークルの参加者から当会ふれあい基金等に寄付金、募金をいただきました。クリーン運動では、総合福祉会館前の掃除と館内清掃に取り組みました。また、歴史健康ウォークは、観光ボランティアガイドの案内のもと「源氏物語のゆかりの地を歩く」と題して紅葉を楽しみ、会員の交流を深めました。

シルバーウエルネス大会・年度末発表大会では、会場準備や運営を17サークルで協力して取り組むことができました。そのほか宇治ボランティア活動センター主催の清掃交流会にも、参加するなど他団体の交流も行いました。

15. 障がいのある人の社会参加の支援

補助 委託	利用 負担
----------	----------

目 標／障がい者の社会参加の機会を創出します。

取組み／身体障がい者デイサービス事業の実施

身体に障がいのある方が、社会参加の場を得て、多くの方と交流ができるよう、卓球バレー、手づくりなど、様々な教室を開催しています。利用者の身体機能の低下も見られる時がありますが、利用者同士の支え合いもある中で、安全面に配慮しながら運営しています。

(各教室の実施状況)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教室数	7	7	7
教室開催回数	79	118	102
登録人数(名)	36	37	42
のべ利用者数(名)	355	524	414

(各教室の開催状況)

教室名	年間開催数	登録利用者数	登録利用者内訳				延べ参加者数	1回当たりの参加人数	平均出席率
			肢体	視覚	聴覚	内部			
視覚裁縫	11	3	0	3	0	0	31	2.8	93.3%
卓球バレー	36	7	7	0	0	0	144	4.0	57.1%
書道	8	3	2	0	0	1	18	2.3	75.0%
コーラス	17	15	4	9	1	1	128	7.5	50.2%
手作り	11	4	1	2	1	0	42	3.8	95.5%
絵てがみ	11	2	2	0	0	0	11	1.0	50.0%
遊びのできるリハビリ	8	8	1	7	0	0	40	5.0	62.5%
合計	102	42	17	21	2	2	414	4.1	

第2章 各種相談からの生活課題、地域福祉課題の把握と解決

相談者自らの意志や決断に寄り添い、制度や専門窓口、当会の強みである地域福祉活動やボランティア活動へのコーディネート力を生かした相談支援を展開しました。

1. ボランティア相談の実施

補助 宇治
委託 社協

目 標／相談や活動先の調整を通じて、ボランティア活動に主体的に参加する人を増やす。
取組み／ボランティア相談や各種調整を通じて、活動参加へのきっかけづくりを行います。

ボランティアの活動先としては、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことで、社会福祉施設でもボランティアの受入れが少しずつ再開され登録団体への調整を行いました。その他にも高校生や大学生が受講している授業の中で実習としてボランティア活動への参加が必要であるということから、当会が実施している事業や活動センター主催のSDGs 清掃活動に参加いただきました。その他にもこども食堂や、当会が実施している介護予防普及啓発事業、学習支援事業へのマッチングを行いました。また、各種ボランティア養成講座、ボランティアマッチングサロンなどの情報提供をしました。「何か活動してみたい」と希望する人の思いを逃さないことを意識してボランティアコーディネートに努めました。

(担当職員による月別ボランティア相談件数の推移)

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	15	13	14	24	31	22	19	21	21	26	23	20	249

※相談件数には、初回相談以降の対応件数を含む。(初回相談月にまとめてカウント)

(担当職員によるボランティア相談件数の推移)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
件数	178	235	249

(相談者の属性(所属))

(単位:名)

個人(一般)	個人V登録者	Vセンター登録団体	学区福祉委員会	ふれあいサロン	ボランティアグループ	当事者団体
66	0	3	0	0	35	0

福祉施設	自治会・町内会	学校	福祉関係機関	行政	企業	その他	合計
12	1	5	8	2	2	9	143

2. ふれあい福祉センター相談事業の実施

補助 宇治
委託 社協

目 標／生活課題の把握と解決のための寄り添いのある支援を行います。
取組み／福祉なんでも相談の実施

福祉なんでも相談において、相談者の課題解決に寄り添っています。また、専門相談の申し込みをきっかけに相談者の必要に応じて、他機関、ボランティア団体等につなぐ場合もあります。

相談は、1回の相談で終わらず複数日、連日にわたって対応していることもあります。知り得たニーズを個別だけの課題だけでなく、解決に向けて、生活支援コーディネーター、地域担当者、他職種等とも連携し、まちづくり、地域づくりへの取り組みのヒントとして生かすよう努めています。

法律相談では、令和4年度に引き続き相続についての相談が最も多く、次に、金銭貸借（サラ金）、結婚、離婚、借地借家の順になっています。相続登記義務化により、相続の相談が増えたと思われます。また、最近では、金銭貸借（サラ金）の相談では、ご家族や親類からの相談が増えており、相談の予約を入れられるものの、当日になり、相談者本人が来館されないことが多くなっています。

障がい者の子どものことと、両親の介護が必要となったダブルケアの相談、親亡き後の生活への不安や心配、高齢者の借家問題などが寄せられています。

（各相談の相談件数の推移）

（単位：件／日）

	福祉なんでも相談	法律相談	登記相談	年金・社会保険相談	多重債務相談	成年後見相談	合計	開設日
令和3年度	275	390	106	9	13	13	806	242
令和4年度	326	361	130	5	19	14	855	241
令和5年度	314	377	141	7	17	11	867	243

3. 貸付相談及び生活相談（物資配布含む）の実施

補助
委託

目 標／貸付相談から見える生活課題を把握します。

取組み／くらしの資金の貸付、生活福祉資金の貸付、償還相談

新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付の償還に係る生活相談対応
貸付相談から見える、生活困窮世帯に対する物価高騰対策緊急生活支援

（1）生活福祉資金貸付の実態

生活福祉資金では、日常生活上で一時的に資金が必要になった場合に、世帯単位での貸付を行っています。例年その多くが教育支援資金であり、申請件数は、令和4年度と比べ、令和5年度は減少しました。教育支援資金の申込件数のうち 51.6%を高校進学が占め、高校進学申込件数の 31.2%を通信制高校が占めました。

（生活福祉資金貸付実施実績）

資金種別		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
		件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)	件数 (件)	金額 (円)
福祉資金	生業	13	4,413,515	6	1,573,196	16	2,504,000
	技能習得						
	療養						
	一般福祉						
	緊急小口	0	0	5	431,000	5	500,000
教育支援 資金	教育支援費	42	16,005,000	37	14,021,000	29	11,032,000
	就学支度費	39	15,357,000	37	14,704,000	29	9,939,000
不動産担保型生活資金		0	0	0	0	0	0
合計		94	35,775,515	85	30,729,160	79	23,975,000

(2) 暮らしの資金貸付事業の実施

年に2回(夏期:7月、冬期:12月)、低所得世帯を対象に暮らしの資金の貸付(10万円限度)を実施しました。また、5月、9月、1月の年3回、借受世帯へ残額通知を発行しています。例年、貸付世帯の多くがひとり親世帯や高齢者世帯であり、貸付事由についても、多くが“生活費”となっています。保証人等を必要としない本貸付を活用して生計の立て直しを図っているケースも見受けられます。

(暮らしの資金貸付件数)

(単位:件)

年度	夏期	冬期	合 計		貸付事由							
			件数	金額 (円)	生活費	医療費	借金返済	失業	交通事故	養育	その他	
令和3年度	15	13	28	2,800,000	24	3	0	0	0	0	0	1
令和4年度	15	25	40	3,950,000	34	4	0	1	1	0	0	0
令和5年度	13	11	24	2,400,000	12	5	0	3	0	0	0	4

(3) 物価高騰対策緊急生活支援事業の実施

物価高騰や長期化するコロナ禍の影響による生活困窮世帯に対して、食料・生活必需品等物資を希望者125件へ配布しました。その機会を通じて、生活困窮者の状況を把握し、必要な支援につなげることを目的として、生活実態アンケートを実施したところ、物資を届けた世帯の約8割はコロナ前の生活に戻れず、依然として生活苦を訴えていました。アンケートの回答に基づき、必要な情報提供や手続きの支援を行い、緊急度に応じて訪問支援も行いました。

(4) 温ったか京都・寄り添いワーカー

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活福祉資金の特例貸付は貸付終了し、償還が始まっています。償還状況を見ると、計画通りに償還できているのは13~16%、償還猶予・滞納は35~39%、免除は44~51%です。借受人から償還免除や償還猶予申請の相談が多く寄せられたほか、当会から個別架電によるアウトリーチを行い、生活状況の把握に努めました。特例貸付終了後も生活苦を訴える声は多く、市の自立相談支援機関をはじめとした関係機関と連携をとりながら、生活支援を行いました。

(生活福祉資金 特例貸付貸付件数) 新型コロナ感染症拡大に伴う特例措置 (単位:件)

資金種別	緊急小口資金	総合支援資金	総合支援資金 (延長)	総合支援資金 (再貸付)	合計
貸付件数	2,055	1,694	954	1,210	5,913

※貸付件数は、特例貸付開始の令和2年3月25日から、受付終了した令和4年9月30日までの総数

(生活福祉資金 特例貸付償還件数) 新型コロナ感染症拡大に伴う特例措置 (単位:件)

償還状況	緊急小口資金	総合支援資金	総合支援資金 (延長)	総合支援資金 (再貸付)	合計
償還完了	39	12	4	2	57
償還免除	1,013	870	422	20	2,325
償還猶予	138	125	56		319
償還中 (滞納含む)	866	693	469		2,028

※異動による誤差あり。延べ数記載のため貸付件数と償還件数とは一致しません。

4. 福祉サービス利用援助事業の展開と成年後見制度利用促進法による支援策の検討

目 標／日常生活に不安のある方の生活課題への対応と支援を行います。

取組み／福祉サービス利用援助事業の実施

生活支援員の拡充と資質向上

成年後見制度利用促進法に基づく情報把握

福祉サービス利用援助事業の相談、支援から生活課題を把握し、解決に努めました。具体的には、相談から契約に至るケースでは、世帯構成員全体に福祉的な支援が必要なケースが多くなっています。制度だけで暮らしの基盤を整えるのではなく、民生児童委員などとも協力し対応しています。

(1) 契約状況

(実契約者数) 生・生活保護世帯 非・非課税世帯 他・その他の世帯

(単位:名)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
令和3年度	14	5	4	2	12	1	9	19	1	0	1	0	25	37	6
令和4年度	10	8	3	2	12	1	8	19	1	0	2	0	20	41	5
令和5年度	5	8	2	3	15	2	10	16	1	1	2	0	19	41	5

※令和3年度新規契約者(精神障がい、非課税世帯)のうち、1名は成年後見人との再契約者

(新規利用者) 生・生活保護世帯 非・非課税世帯 他・その他の世帯

(単位:名)

区分	認知症 高齢者等			知的 障がい者等			精神 障がい者等			その他			合計		
	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他	生	非	他
令和3年度	6	2	2	0	4	0	5	3	0	0	0	0	11	9	2
令和4年度	0	3	0	0	2	0	2	2	0	0	1	0	2	8	0
令和5年度	0	3	0	1	4	0	1	1	0	1	0	0	3	8	0

※令和3年度新規契約者(精神障がい、非課税世帯)のうち、1名は成年後見人との再契約者

新規相談の急増や既存及び新規契約で支援員につなげることが難しいケースも多く専門員の人数、対応時間を考えると速やかな待機者の解消には至りませんでした。3月末の待機者は35名です。

(2) 相談調整等の件数の推移

支援開始をして、生活支援員の定期的な訪問のみならず、当会への電話での不安の訴えなどがあるケースも多くあります。そのような場合には、関係者と連携し、支援方針等を統一して互いの役割の確認をしながら関わっています。

(相談・連絡調整活動の実施状況)

(単位:回)

区分	認知症 高齢者等	知的 障がい者等	精神 障がい者等	その他	合計
令和3年度	1,964	1,164	2,679	46	5,853
令和4年度	1,447	980	3,073	79	5,579
令和5年度	1,312	1,064	2,540	133	5,049

(3) 生活支援員の資質向上と相互交流・啓発による支援員増員

福祉サービス利用援助事業における「生活支援員」に対して、利用者への相談援助を学ぶための生活支援員新任研修および現任研修（いずれも京都府社会福祉協議会主催）への参加を呼びかけました。新任研修は令和5年8月28日に、動画配信で宇治市総合福祉会館にて実施して、4名が参加されました。同様に現任者研修は令和5年12月6日に、動画配信で実施して、9名が参加されました。また、地域生活支援サポーター講座（山城北中部社協合同講座）を井手町山吹ふれあいセンターにて実施しました。支援員同士の交流を深めるための「お茶会」は、令和5年度も中止としました。

(福祉サービス利用援助事業の紹介・PR)

実施日	啓発	場 所
令和5年5月16日(火)	宇治市福祉こども部・健康長寿部 職員研修	宇治市役所
令和6年1月18日(木)	宇治市民生児童委員協議会 民生部会	宇治市総合福祉会館
令和6年3月 9日(土)	社会福祉協議会の事業説明(※地域福祉権利擁護事業を中心)	おうばく病院デイケア みらい

(NPO法人山城権利擁護ネットワーク主催 福祉サービス利用援助事業の紹介・PR)

日 時	令和6年1月6日(土) 11:00~12:00
場 所	東宇治地域福祉センター
目 的	福祉サービス利用援助事業の啓発
内 容	福祉にまつわる制度や施策、当事者の権利を擁護する取組みについて、当事業の概要や利用者の状況、関わりの中で大切にしていることなどの説明。
参加者	山城権利擁護ネットワーク主催 法人後見サポーター養成講座 受講者10名
実施して	当事業の生活支援員への活動について声かけしましたが、生活支援員登録には結びつきませんでした。しかし、成年後見などに関心のある市民が参加される当講座での事業紹介やPRには意味があると考え、今後も協力していきます。

(4) 山城北中部広域社協合同講座(研修や講座等の企画・実施)

福祉サービス利用援助事業を啓発する機会と、専門員の資質向上を目的に、山城北中部の7市町村社協(宇治市・城陽市・久御山町・八幡市・京田辺市・井手町・宇治田原町)と京都府社協との協働で企画を立て、研修や講座等を実施しています

(合同会議)

日 時	① 令和5年6月 7日(水) ② 令和5年7月19日(水) ③ 令和5年8月24日(木)	④ 令和5年10月 3日(火) ⑤ 令和5年11月29日(水) ⑥ 令和6年 3月18日(月)※欠席
場 所	城陽市社会福祉協議会・京田辺市社会福祉協議会等	
目 的	市町村単位で開催が難しい福祉サービス利用援助事業の課題解決への取組み	
内 容	生活支援員向けの研修会の企画と円滑な事業運営のための情報共有	
参加者	各市町村社協専門員及び担当職員	
参画して	生活支援員向けの研修のための企画についての話合いや、福祉サービス利用援助事業の運営についての情報共有を行いました。他市町村の当事業の取組みの現状や取り組み方法の違いを知り、当会の取り組み方法の改善への参考としていきます。	

(生活支援員向けの研修)

日時	令和6年2月6日(火)13:45~
場所	井手町 山吹ふれあいホール
目的	生活支援員の資質向上
内容	①精神疾患の理解と関わり方のコツ」 講師:大塚 剛史 氏 (宇治おうばく病院 地域医療連携室 課長 兼 在宅・地域支援部 課長) ②意見交換(グループワーク) ・講義の感想と各々の関わり方のコツ/活動の中で感じていること
参加者	各市町村生活支援員 社協専門員及び担当職員(計46名) (うち、宇治市社協 生活支援員4名 専門員1名)
実施して	参加した生活支援員からは、他の市町村の生活支援員と意見交換ができて良かったという声や、精神疾患についても、理解が進んだという声もありました。生活支援員のニーズに沿い、研修や日々の活動へのモチベーションになるような企画を今後も検討していきます。

(5) 専門員の資質向上

福祉サービス利用援助事業において「専門員」の資質向上を目的に研修・会議に専門員・担当係長が参加しました。

(地域福祉権利擁護事業(福祉サービス利用援助事業) 運営会議について)

日時	令和5年8月9日(水)13:30~15:00
場所	宇治市総合福祉会館(Zoomにて参加)
内容	住民税非課税世帯に対する京都府の公費負担の継続を目指した、利用者への市町村社協アンケートの実施結果の報告
参加者	各市町村社協の事務局長、福祉サービス利用援助事業専門員・権利擁護事業担当
参加して	2回会議が行われる予定でしたが、台風7号の被害の関係で、8月末に予定されていた運営会議は中止となりました。

(地域福祉権利擁護事業(福祉サービス利用援助事業) 実務研修)

日時	令和5年8月31日(木)13:30~16:00
場所	ハートピア京都
内容	市町村社協への「実地調査」で報告した項目を素材として、学び合うことで京都府内全体での適切な支援につなげられるようにする
参加者	各市町村社協の福祉サービス利用援助事業専門員・権利擁護事業担当
参加して	京都府社会福祉協議会が京都府下の市町村に対して行った実地調査で、各市町村に指摘した事項についての共有がありました。 各市町村により、運用方法が異なることも学びになりました。

(京都府医療観察ネットワーク連絡会「京ねっと」)

日 時	令和5年9月14日(木)13:30~16:00
場 所	京都保護観察所
内 容	事例紹介~医療観察処遇のその後、地域での本人支援へ~ 1. 医療観察処遇から処遇終了後の本人支援の経過を事例紹介にて共有 2. 地域支援関係者との意見交換
参加者	京ねっと所属機関・関係機関
参加して	処遇終了後も地域で継続した生活が送れるよう各関係機関の連携の必要性を学びました。どこに住むのか(グループホームか一人暮らしか)、どのように過ごすのか(就労やそのほかの活動)、どのようなサービスが必要なのか、本人と一緒に考えていくことで、精神的な安定と共に身体的、経済的にも安定することがわかりました。

(日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)実地調査)

日 時	令和5年12月14日(木)10:00~16:00
場 所	宇治市総合福祉会館
内 容	事業実施にかかる組織体制、契約手続き、通帳やハンコ等の保管、支援計画の取扱い等が適正に行われているかについての調査
参加者	京都府社会福祉協議会2名、京都府運営適正化委員2名、当会事務局6名
調査を受けて	当会では、利用者の支払等の手続きを終えた後、確認のために支払報告書に利用者の署名を記入いただいているが、預金等の出金前にも利用者の意志確認をしたという書類を作成するようにとの指摘があったため改善を進めることとなりました。

(福祉サービス利用援助事業 ブロック別事例検討会)

日 時	令和6年1月11日(木)13:30~16:30
場 所	木津川市社会福祉協議会
内 容	支援困難な2事例を検討 京都弁護士会 中田正義氏による講義
参加者	各市町村社協の福祉サービス利用援助事業専門員・権利擁護事業担当・関係機関
参加して	度重なるネットでの注文や必要なサービスの拒否による生活状況の悪化をどのように支援していくのか、担当社協以外からの視点、検討内容の共有をしています。目の前のことだけでなく、他の意見を聞くことで今後の支援の幅を広げます。

(6) 成年後見制度利用促進法に基づく情報把握

(令和5年度 市町村社協法制化 40 周年記念 社会福祉協議会活動全国会議2日目)

日 時	令和5年11月8日(水)10:00~12:30
場 所	全国社会福祉協議会 灘尾ホール
内 容	分科会3 社協における第二期基本計画を踏まえた権利擁護支援の体制づくり ①成年後見制度利用促進基本計画における中核機関の受託(前橋市社協) ②川西市成年後見支援センター「かけはし」の取組み(川西市社協) ③金融機関と協働した権利擁護の取組み(宇佐市社協)
参加者	都道府県社協・市町村社協の権利擁護事業担当者・成年後見事業担当者
参加して	他市町村の先進事例を聞き、日常生活自立支援事業と成年後見制度を一体的に進めることで、狭間の無い利用者支援につながることを改めて学ぶ場となりました。

(令和5年度 法人後見担当職員研修)

日 時	①令和6年3月 5日(火)10:30~16:45 ②令和6年3月13日(水)10:30~16:45
場 所	ハートピア京都
内 容	①成年後見制度の手続き／実務／関係制度・関係法令について 報告者:京都家庭裁判所後見センター／げんてん社会福祉士共同事務所 京都市生活福祉部生活福祉課／京都市乾隆地域包括支援センター 京都民医連あすかい病院 ②京都府社協が担う法人後見／意思決定支援／法人後見活動の実際／演習 報告者:京都府社会福祉協議会／げんてん社会福祉士共同事務所 NPO法人尾張東部権利擁護支援センター(あすライツ)
参加者	府内市町村社協 権利擁護・法人後見担当職員
参加して	①、②ともに、法人後見受任団体からの報告がありました。後見人であっても職務の範囲外のこと(「医療同意」「連帯保証人や身元保証人になること」「事実行為(介護、病院等への付き添い、日用品購入や掃除など)」)があるが、後見人は被後見人に代わり全てができると勘違いしている関係者や親族などもあり、適時対応を求められる難しさがあることを改めて認識しました。また、被後見人の意志決定支援において、支援者が陥りやすいミスについて、「支援者側の経験や価値が優先されていないか」「本人が決定したことを間違いと捉える価値観で支援していないか」など、常に意識しておくことが必要であるとの話がありました。被後見人を「課題を抱える人」とするのではなく、本人自身もチームの一人として、起きている状況や状態について一緒に考えるメンバーだと捉える心構えが必要であることを学ぶことができました。

5.生活課題の把握と生活課題に向き合う団体の活動支援



目 標／団体の運営支援を通じて団体運営の課題、ニーズを把握します。

団体の活動支援を通じて、当事者の生活課題や地域課題を把握します。

取組み／赤い羽根コラボ助成や各種民間助成金を通じた団体との連携、情報共有

NPO や市民活動団体等と連携した生活相談への対応

(1) 赤い羽根コラボ助成金

宇治市共同募金委員会の事業とし、赤い羽根共同募金配分金を活用した活動支援が行われています。募集事務等は募金委員会の事務局を併せ持つ当会が行っています。助成金相談を入口にしながら、当事者団体やボランティア活動団体の状況把握や課題についての情報収集を行うことが当会として必要と捉えており、活動や事業の原資となる共同募金運動との連動性をもって相談対応しています。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行し、事業の再開を見据えた申請をされる団体や、新たに申請をされる団体が出てくるという傾向が見られました。しかし中には申請はしたものの結果的に事業の再開にいたらなかった団体もあり、コロナ禍で薄れてしまった人のつながりや、団体の基盤を再構築していくにあたり、改めて各団体の現状を把握し、資金面だけでなく、寄り添って応援していく取り組みが求められています。助成を継続しながら、現状の再分析と、各団体に寄り添った丁寧な関わりを再度検討していきます。

(赤い羽根コラボ助成金の助成状況)

年度	申請額(円)	決定額(円)	申請事業件数		決定件数	新規団体
			運営費	事業費		
令和3年度	3,143,000	2,558,830	運営費	18	19	2
			事業費	52	51	2
			新規事業	5	5	1
令和4年度	2,907,000	2,515,000	運営費	19	19	4
			事業費	56	56	2
			新規事業	0	0	0
令和5年度	3,118,000	2,949,000	運営費	21	19	2
			事業費	56	54	2
			新規事業	1	0	0

(赤い羽根コラボ助成金の助成内訳)

(単位:円)

	団体名	事業名称	助成決定額	助成確定額
1	ビーバー	視覚障害者等のサロン、 視覚障害者等への CD 送付	50,000	50,000
2	宇治おもちゃ箱	運営助成	20,000	10,000
3	わあわあネット	わあわあネット合同交流会	50,000	50,000
		わあわあネットミニ交流会	50,000	50,000
4	(特非)京よりそい	運営助成	20,000	20,000
5	宇治地区保護司会	更生保護制度の啓発を目的とした、 標語・作文の募集と表彰	29,000	29,000
6	宇治市連合母子会	運営助成	20,000	20,000
		ひとり親家庭親子のための ボーリングクリスマス会	50,000	50,000
		ひとり親家庭親子のための 夏に冬を感じてみよう!スケート体験	50,000	50,000
		ひとり親家庭親子のための いちご狩り体験	50,000	50,000
7	宇治難病患者連絡会	運営助成	20,000	20,000
		難病患者・家族交流会 (山城北保健所と共催)	50,000	50,000
8	わくわく kyoto	Space showcase vol.3	50,000	50,000
9	宇治市連合喜老会	シルバーリーダー研修会	50,000	45,000
		友愛活動	50,000	6,000
10	宇治リーディングボランティア	リスナーと URV との交流事業	50,000	50,000
		音訳研修会 (URV 会員向け)	50,000	50,000
11	宇治市障害者スポーツ 大会実行委員会	第47回宇治市障害者スポーツ大会	50,000	50,000
12	グリーンボランティア「あめノチ花」	運営助成	20,000	20,000

13	宇治市障害児・者父母の会	音楽療法	50,000	50,000
14	宇治市障害者福祉施設 連絡協議会	うじ・はんどめいどフェア	50,000	50,000
		市役所ロビーほっとショップ、 オープンカフェうじ	50,000	50,000
15	炭山区町内会助け合い 移動支援をすすめる会	運営助成	20,000	20,000
16	御蔵山ゆう輪蔵ぶ	運営助成	20,000	20,000
17	精神保健サロン 「元気です会」	精神障がい者サロン運営事業	46,000	46,000
		精神障がい者 野外レクリエーション事業	50,000	50,000
		精神障がい者クリスマス会事業	46,000	46,000
18	宇治市介護者(家族)の会	運営助成	20,000	20,000
		会報「ほのぼの」発行、暑中見舞 い、年賀状送付	50,000	45,000
		親睦交流会 (介護体験発表とつどい)	50,000	50,000
		サロンせせらぎ(地域のつどい)	50,000	50,000
19	宇治市肢体障害者協会	運営助成	20,000	20,000
		市民とのふれあい	50,000	50,000
		卓球バレー交流会	50,000	0
20	NPO 法人アウンジャ	運営助成	20,000	20,000
		食材の分配	50,000	50,000
		食事会	50,000	50,000
		ジェンダーフリーの学習会	50,000	50,000
21	おとなの居場所”歌広場”	運営助成	20,000	20,000
22	まちづくりねっと・うじ	交流の場づくり /専門家とのつながりづくり	50,000	50,000
23	宇治市子ども会連絡協議会	研修活動	46,000	46,000
		球技大会(グランドゴルフ大会)	50,000	50,000
		新春子ども大会	50,000	50,000
24	第二田楽集会	子どもの集いの場づくり	40,000	40,000
25	宇治市視覚障害者協会	研修旅行	50,000	50,000
		点訳ボランティア養成講座	50,000	50,000
		啓発事業	50,000	50,000
26	宇治市要約筆記サークル 「エコー」	運営助成	20,000	20,000
		機関紙「エコー便り」発行	50,000	50,000
		中失・難聴者コミュニケーション 改善訓練	50,000	50,000
		「高齢者サロン」での 聴覚障害者支援	50,000	50,000

27	宇治市中途失聴難聴者協会	機関紙「はと」発行発送	50,000	50,000
		みんなの手話勉強会	50,000	50,000
		聞こえの広場・誕生日会	50,000	50,000
28	宇治地域福祉研究所 (学校 de カフェ)	運営助成	20,000	20,000
		市民向け講演会の実施	50,000	50,000
29	宇治手話サークル太陽	交流会・研修会・地域別交流会	50,000	50,000
		社会見学	50,000	50,000
		新春交流会	50,000	50,000
30	宇治市父子会	父と子のつどい(バーベキュー)	50,000	28,000
31	つながるサロン宇治	運営助成	20,000	20,000
32	炭山地区まちづくり協議会	運営助成	20,000	20,000
33	要約筆記サークル 「やまびこ」	運営助成	20,000	20,000
		聴覚障害及び団体への支援	35,000	31,000
		聴覚障害者と要約筆記の啓発	24,000	5,000
		要約筆記者の研修	13,000	13,000
34	宇治市ろうあ協会	運営助成	20,000	20,000
		第24回敬老会	50,000	30,000
		社会見学	50,000	50,000
		やまぶき事業	50,000	50,000
35	kinarico	運営助成	20,000	20,000
		にしみ絵体験・おはなし会	40,000	40,000
36	子ども部会 子どもサロン	運営助成	20,000	20,000

※助成決定額:年度当初に申請を受けて決定した額/助成確定額:年度終了時の活動実績に基づいて確定した額

(2) 民間助成金の情報提供

福祉活動団体からの相談を受ける中で、生活課題や地域課題の把握を行うとともに民間助成金の情報を案内して、その活動の支援を行いました。令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、元の生活に戻りつつあり、福祉活動団体の活動が再開または活発化してきました。福祉活動を支援するための助成金情報を各団体に案内し、申請に必要な推薦文の記入や申請・報告にかかる取りまとめを行うなどのサポートを行いました。ここ数年、こども食堂を支援する助成金情報が増え、宇治市内でこども食堂を開催されている団体に助成金の案内をしました。

(民間助成金の助成状況) ※本会が事務取扱をして助成決定に至った団体分のみ掲載

助成金名	助成団体
大阪ガスグループ福祉財団 令和5年度「高齢者福祉助成」	槇島学区福祉委員会

6. 生活困窮者自立支援事業における学習支援事業の取組み

目 標／中学生の学習習慣の定着を目指した支援を行います。

若年層への地域福祉・ボランティア活動へのきっかけづくりに生かします。

取組み／週2回の学習支援事業の実施

子どもの貧困対策の一助となることを目的に、平成29年度より、生活困窮者自立支援法に基づく中学生の学習支援事業「うじピョンの学び舎」を運営しています。宇治市から委託を受けた取組みです。中学生の学習習慣の定着を図るため、原則、週2回2時間の開催に加え、夏休みや高校入試の前には週3回開催しています。令和5年度の実施回数は、事業開始以来最多となる109回でした。

さまざまな事情により、学校の勉強から遅れている生徒に対しては、学習支援員が付きっきりで指導を行いました。必要に応じて前の学年の既習範囲に遡って復習するなど、手厚い学習のサポートをしています。結果として、中学3年生は、8名全員が高校に進学しました。進学にあたっては、教育支援資金の貸付相談へと円滑につながる場面もあり、日ごろから持っている保護者や生徒とのかかわりを活かすことができました。

学習支援員には、主に大学生に参加いただいています。自らの近い将来の姿と重なる大学生とのかかわりは、中学生が進路について考えるきっかけとなるためです。学習支援員の募集は、主に、ボランティア募集サイト「activo」を通して行っていますが、新規のボランティア応募は減少しています。

令和5年度は、卒業生が皆で日を合わせて、教室に顔を見せに来てくれたことが度々ありました。「うじピョンの学び舎」が勉強の場であると同時に、卒業後も生徒たちにとって居場所となっていることが感じられる出来事でした。卒業後も継続的に生徒とのかかわりを持ち、今後の進路を見守っていきます。

(学習支援事業の開催状況)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	8	8	8	10	11	8	9	9	7	10	12	9	109
参加人数のべ(人)	58	57	60	64	79	74	91	94	79	92	100	70	918
学習支援員のべ(人)	34	43	36	43	36	32	44	44	33	41	45	43	474

(学習支援事業の実施推移)

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
回数	84	108	109
参加人数(のべ)	824	947	918
学習支援員(のべ)	363	542	474

7. 宇治市共同募金委員会との協働による社会や地域の実情に応じた活動支援

目 標／共同募金運動への協力を通じて寄付文化の醸成を図ります。

取組み／共同募金や歳末たすけあい募金が地域の実情に応じて有効活用されるよう、情報発信に協力するとともに、当会が把握する地域課題やニーズ、資金需要を宇治市共同募金委員会と共有します。

宇治市共同募金委員会との協働により、新たな募金運動のあり方を検討します。

10月1日から3月31日まで展開される赤い羽根共同募金(種別:戸別、グループ、個人、街頭、資材、学校、その他)と、12月1日から12月31日まで展開される歳末たすけあい募金運動を様々な方法で市民に周知しました。運動を進めるにあたり、宇治市共同募金委員会の事務局として、運営委員会を4回、審査委員会を2回、募金推進会議を1回開催しました。

街頭募金運動では、コロナ禍以降、最多の57団体の参加がありました。参加団体からは、「募金の額よりも、毎年、共同募金が始まったことを伝えていくことが大事なので、今年も協力します。」という力強いご意見もいただきました。

また、当会に日頃、寄せられる相談や地域の声を共同募金委員会の運営委員会や審査委員会に報告をして、地域で求められている活動ニーズや募金配分金による活動助成の必要性について協議いただきました。

事務局として、例年同様、民間こども園や保育園を通じての組立式募金箱による募金活動のサポートや宇治市共同募金委員会オリジナルピンバッジ(チャチャ王国のおうじちゃまデザイン)の作成を通じて募金協力者の拡充に努めました。

(募金実績)

(単位:円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
一般募金	9,313,780	9,435,086	9,140,973
歳末募金	6,690,566	5,950,607	5,723,035
合 計	16,004,346	15,385,693	14,864,008

(各委員会の開催状況)

運 営 委 員 会	第1回:令和5年6月19日(月)10:00~12:00 場 所:宇治市総合福祉会館 ※オンライン併用 参加者:運営委員22名(対面12名、オンライン2名、委任状8名)／監事2名 議 案:補欠運営委員の選任／令和4年度事業・決算・監査報告／令和5年度推進計画の承認／サロン助成金・赤い羽根コラボ助成金審査結果報告／令和5年度事業への募金配分
	第2回:令和5年9月8日(金)13:15~14:10 場 所:宇治茶会館 ※オンライン併用 参加者:運営委員22名(対面15名、オンライン3名、委任状4名)・監事2名(対面2名) 議 案:補欠運営委員の選任／補欠副会長の選出／次期運営委員の選任／次期監事の選出／令和5年度募金推進会議の開催／宇治市共同募金委員会の街頭PR
	第3回:令和5年11月30日(木) ※書面による決議 参加者:20名(議案への書面回答者) 議 案:宇治市共同募金委員会代表・副代表の互選

	<p>第4回:令和6年3月7日(木)10:00~12:00 場所:宇治市総合福祉会館 ※オンライン併用 参加者:運営委員22名(対面13名、オンライン1名、委任状8名)・監事1名(対面1名) 議案:補欠運営委員の選任/宇治市共同募金委員会会則の改正/サロン助成金要綱の改正/令和6年度事業計画・予算(案)/令和6年度事業への募金配分の承認</p>
審査委員会	<p>第1回:令和5年6月15日(木)14:00~15:30 場所:宇治市総合福祉会館 参加者:審査委員5名 議案:令和4年度募金運動結果/サロン助成・コラボ助成の審査/令和5年度募金の次年度配分方針/共同募金運動の新たな取組案</p>
	<p>第2回:令和6年2月26日(月)13:30~15:00 場所:宇治市総合福祉会館 参加者:審査委員3名(※成立要件を満たさず協議のみ) 議案:令和5年度活動状況/令和4年度募金配分金(令和5年度事業への配分)執行状況について/令和5年度募金配分金(令和6年度事業への配分)/令和6年度サロン助成・コラボ助成/共同募金の新たな取り組みにむけての意見交換</p>
募金推進会議	<p>日時:令和5年9月28日(木)13:30~15:00 場所:お茶と宇治のまち歴史公園 茶づな 参加者:35団体36名(うち運営委員7名) 報告:宇治市共同募金委員会運営委員・監事・審査委員/令和4年度宇治市共同募金委員会活動報告/令和5年度推進計画</p>

第3章 法人運営及び財務運営の強化

社会福祉法人としての法人運営の強化を図るとともに、当会活動の広報周知に努めました。また、地域福祉を展開していくために必要な財源基盤の強化として、従来からの会員募集や自動販売機の設置拡充を図るとともに、積極的な助成金の活用や遺贈等の働きかけ等、新たな財源確保の方法に取組みました。

1. 時代に即した法人運営の強化 **宇治社協**

目 標／時代に即した社会福祉協議会の運営を進めます。

取組み／三役会の実施

理事会の実施

評議員会の実施

定期監査の実施

社会福祉法人としての組織強化や当会の広報周知、地域福祉推進のための財源づくり、働き方改革などの時代の情勢に応じた法人運営を行いました。

(1) 三役会、理事会、評議員会、定期監査の実施

正副会長会（三役会）、理事会、評議員会、監査、評議員選任・解任委員会を適宜開催しました。感染症対策のため、対面出席とオンライン出席の併用による実施を継続しました。

(三役会の開催状況) 場所: 宇治市総合福祉会館

三 役 会	第1回: 令和5年 4月25日(火) 9:00~12:00
	第2回: 令和5年 5月16日(火) 9:00~12:00
	第3回: 令和5年 7月 7日(金) 15:00~17:00
	第4回: 令和5年 8月24日(木) 9:30~12:00
	第5回: 令和5年10月11日(水) 9:30~12:00
	第6回: 令和5年12月22日(金) 13:30~17:00
	第7回: 令和6年 1月19日(金) 15:00~17:00
	第8回: 令和6年 2月 8日(木) 9:30~12:00
	第9回: 令和6年 2月29日(木) 13:30~17:00

(理事会の開催状況) 場所: 宇治市総合福祉会館

理 事 会	第1回: 令和5年5月25日(木) 10:00~12:00
	出席理事13名/出席監事1名
	<議案>
	①社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 定款の一部変更について
	②補欠評議員の選任候補者の推薦について
	③補欠評議員の選任候補者の推薦について
④補欠評議員の選任候補者の推薦について	
⑤補欠評議員の選任候補者の推薦について	

理 事 会	<ul style="list-style-type: none"> ⑥補欠評議員の選任候補者の推薦について ⑦評議員選任・解任委員会の開催について ⑧令和4年度事業報告について ⑨令和4年度社会福祉事業拠点区分決算について ⑩令和4年度収益事業拠点区分決算について ⑪令和5年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正案について ⑫理事候補者の推薦について ⑬幹事候補者の推薦について ⑭定時評議員会(第183回評議員会)の開催について
	<p>第2回:令和5年6月23日(金)15:30~16:30 出席理事13名/出席監事2名 <議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ①代表理事(会長)、副会長及び常務理事の選定について ②評議員選任・解任委員会補欠委員の選任について
	<p>第3回:令和5年9月14日(木)13:30~15:30 出席理事12名(内、1名オンライン参加)/出席監事2名 <議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和5年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正案について ②くらしの資金貸付規程の一部改正について ③生活福祉資金貸付調査委員会設置規程の一部改正について ④個人情報取扱規程の制定について
	<p>第4回:令和6年1月26日(金)13:30~15:30 出席理事11名/出席監事2名 <議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ①令和5年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正案について ②社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 事務局規程の一部改正について ③社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 組織及び事務分掌規程の一部改正について ④社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 職員就業規則の一部改正について ⑤社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 職員給与規程の一部改正について ⑥社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 嘱託職員に関する規程の一部改正について ⑦第184回評議員会の開催について ⑧第185回評議員会の開催について
	<p>第5回:令和6年3月14日(木)13:30~15:30 出席理事13名(内、1名オンライン参加)/出席監事2名 <議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ①社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 職員就業規則の一部改正について ②社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 旅費規程の一部改正について ③令和6年度事業計画案について ④令和6年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算案について ⑤令和6年度収益事業拠点区分資金収支予算案について ⑥宇治市社会福祉協議会中期経営計画策定委員会について ⑦定時評議員会(第186回評議員会)の開催について

(評議員会の開催状況) 場所:宇治市総合福祉会館

評議員会	<p>第1回 定時評議員会(第183回):令和5年6月23日(金)13:30~15:30 出席評議員29名(内、4名オンライン参加)/出席理事11名/出席監事1名 <議案> ①社会福祉法人宇治市社会福祉協議会 定款の一部変更について ②令和4年度事業報告の承認について ③令和4年度社会福祉事業拠点区分決算の承認について ④令和4年度収益事業拠点区分決算の承認について ⑤令和5年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算補正の承認について ⑥~⑯理事の選任について ⑰~⑳監事の選任について</p>
	<p>第2回 評議員会(第184回):令和6年2月15日(木)10:00~12:00 出席評議員30名(内、3名オンライン参加)/出席理事11名(内、1名オンライン参加)/出席監事1名 <議案> ①令和5年度社会福祉事業拠点区分第2次補正予算の承認について ②令和5年度社会福祉事業拠点区分第3次補正予算の承認について</p>
	<p>第3回 評議員会(第185回):令和6年3月29日(金)10:00~11:40 出席評議員27名(内、2名オンライン参加)/出席理事12名/出席監事2名 <議案> ①令和6年度事業計画案の承認について ②令和6年度社会福祉事業拠点区分資金収支予算案の承認について ③令和6年度収益事業拠点区分資金収支予算案の承認について</p>

(評議員選任・解任委員会)

日時	令和5年6月1日(木)13:30~14:30
出席者	評議員選任・解任委員3名
内容	① 補欠評議員(第1号)の選任候補者の推薦について ② 補欠評議員(第2号)の選任候補者の推薦について ③ 補欠評議員(第3号)の選任候補者の推薦について ④ 補欠評議員(第4号)の選任候補者の推薦について ⑤ 補欠評議員(第4号)の選任候補者の推薦について

(期末監査)

日時	令和5年5月9日(木)13:30~15:00
出席者	出席監事1名/出席理事1名
内容	①令和4年度 業務監査 ②令和4年度 財務監査
実施日	令和5年5月22日(月)14:00~15:30
出席者	出席監事1名/出席理事1名
内容	①令和4年度 業務監査 ②令和4年度 財務監査

(中間監査)

日時	令和6年1月26日(金) 15:30~17:00
出席者	出席監事2名/出席理事2名
内容	①令和5年度 業務中間監査 ②令和5年度 財務中間監査

(2) 衛生委員会の実施

職員の健康意識の向上を目的とした情報提供や職場環境の整備に努めました。

(衛生委員会)

実施日	毎月第3水曜日 14:00~15:00
出席者	委員長1名、衛生管理者1名、産業医1名、事業所1名、労働者2名、事務局1名
内容	職場巡視(週1回は衛生管理者が実施、月1回は産業医が実施) 職場環境の整備について、ストレスチェックについて

2. 財源づくりの強化に向けた取組み

宇治
社協

目 標/収支バランスなど、今後の適切な法人運営に向けた財源のあり方を検討します。

取組み/積極的な会員(住民会員、事業所会員、施設会員、団体会員、賛助会員)募集の呼びかけ

1㎡でできる社会貢献事業(収益事業)による飲料用自動販売機設置の拡充

寄附金の受入れと基金の適正運用

遺贈等の積極的な受入れ

(1) 会員募集の増強

令和5年度の会員募集実績は、令和4年度に比べ35万円余りの減額となりました。自治会・町内会への加入率の低下やコロナ禍以降の自治会・町内会活動の縮小や見直しの動きなども影響してか、住民会費や寄付金の減少傾向には歯止めがかかっていません。事業所会費や団体会費等、協力額が復調したり減少幅が緩やかになったりする様子も見られます。当会や当会の関わりの中で生まれた地域住民との関係性を大切にしながら、住民会費や賛助会費等への協力を働きかけること、さらに、当会と関わりのある団体との接点を強め、地域の事業所等とも関わりを強めていく方策の検討も必要です。

(令和5年度 会員募集の状況) (単位 円)

	当会の会費・寄付金
令和3年度	10,471,120
令和4年度	9,963,608
令和5年度	9,615,802

(令和5年度 会員種別ごとの状況)

(単位:円)

	住民会費	寄附金※	賛助会費	事業所会費	団体会費	施設会費	特別賛助会費
令和3年度	7,419,500	1,425,170	99,300	401,000	455,700	215,000	455,450
令和4年度	7,253,000	1,350,153	108,345	219,000	421,610	200,000	411,500
令和5年度	6,859,400	1,298,801	91,276	336,000	403,325	205,000	422,000

(2) 1㎡でできる社会貢献(自動販売機設置事業)の推進

企業等の社会貢献を進める観点から様々な法人や事業所、地域の学区福祉委員会等のご協力を得ながら飲料用自動販売機を設置しています。電気料金改定や飲料品の値上げを受けて全体的に自動販売機の売上実績が減少しています。物価高騰の影響も受け、新規設置要件が変わり、今後の設置台数の増数は、さらに厳しい状況にあります。

(自動販売機手数料収益実績)

(単位:円)

	設置場所	令和3年度	令和4年度	令和5年度
1	(株)ミヤモト	108,983	108,355	110,186
2	旦椋公会堂	167,622	170,174	175,373
3	開地域福祉センター	93,420	119,644	95,890
4	東宇治地域福祉センター	144,925	138,748	112,459
5	桑田建設	68,974	74,648	85,806
6	リエゾン宇治おおくぼ	107,532	89,532	67,467
7	リジェール柳田	207,235	199,073	195,647
8	マークアップ大久保	109,005	88,830	23,561
9	デイサービスみやび	96,947	57,832	設置なし
10	ユニチカユニオン宇治	118,112	122,291	129,505
11	木幡公民館	21,306	設置なし	設置なし
12	ハーモニー東風館	25,872	23,667	31,517
13	総合福社会館	15,409	30,530	39,789
14	あさくら診療所	132,722	113,778	118,562
15	まごころ西宇治	75,902	93,503	89,235
16	神明神社	126,987	105,059	94,047
17	地域福祉支援センター宇治小倉	117,821	113,136	98,374
18	宇治市役所西側駐輪場	145,126	145,618	124,042
19	個人私有地(西笠取)	98,461	103,732	120,770
20	山城福社会	15,426	44,526	41,762
	合計	1,997,787	1,942,676	1,753,992
	設置台数	20	19	18

(3) 寄附金の受入れと「ふれあい基金」「ボランティア基金」「災害時支援活動準備金」の適正運用

様々な方から寄附を受入れ、「ふれあい基金」「ボランティア基金」の運用による財源確保に努めました。令和5年度は、寄付を募るイベント事業の回復が見られ、総額は増加しています。

(寄附金・寄附物品の推移)

(下段:円)

年度	ふれあい基金寄附	災害時支援活動準備金※1	目的指定寄附	寄附物品
	件数・金額	件数・金額	件数・金額	件数・内容
令和3年度	10件 639,862	1件 3,000	4件 260,000	12件 りんご、筆記用具、車いす、他
令和4年度	17件 1,399,595	0件 0	2件 80,000	8件 米、スクリーン、文具、座布団、シャワーキャリー他
令和5年度	14件 1,459,777	0件 0	2件 1,030,000	7件(うち1件は目的指定) 米、碁盤・碁石、車いす、座布団、他

※会館窓口ふくろう募金等、複数回寄付先は1件とカウント。

※災害時支援活動準備金は、社協会費の2%分を含まず、目的指定寄附として受けた分のみ掲載

(各基金運用実績)

(単位:円)

年度	ふれあい基金			
	運用益、債券売却益	基金積立	基金取崩し	基金額
令和3年度	597,280	1,739,862	0	202,318,103
令和4年度	597,280	2,499,595	0	204,817,698
令和5年度	597,280	0	0	204,817,698

年度	ボランティア基金	
	運用益、債券売却益	基金額
令和3年度	272,304	121,788,928
令和4年度	264,637	121,788,928
令和5年度	928,919	121,788,928

(4) 遺贈等の積極的な受入れ

当会のホームページのリニューアルに伴い、「寄附・遺贈」のページを開設しました。

3. 多角的な広報の取組み

- 目 標／地域福祉活動や地域課題を広く周知し、地域福祉への関心を高めます。
 取組み／広報紙「社協だより」の発行や事業ごとの PR チラシ、ミニ広報紙の活用
 洛タイ新報への掲載による「月イチうじピョンの〇〇な話」の連載
 ホームページの刷新による情報発信の強化

当会の活動や地域福祉活動・ボランティア活動に取り組んでいる団体、施設等の情報を、社協だよりの発行や、SNS 等を活用した広報、洛タイ新報様のご協力による記事掲載などにより、地域福祉活動や当会の活動を知らない人たちに向け、発信してきました。

(広報紙「社協だより」の発行)

実施日	①7月1日号 ②3月15日号
場 所	市内約 82,000 世帯にポストイング
目 的	当会事業の周知および各種団体、活動情報の集約と発信
内 容	<p>①新たな体制がスタートしました(新会長の挨拶・新役員体制の紹介) 令和5年度事業計画／笑顔と自信をとりもどす～中途失聴・難聴者協会の取組み～ 令和4年度決算、令和5年度予算 USKシルバーウェルネス発表大会の案内 うじピョンの「地元に出かけよう」(催し物紹介) 小さい子どもたちの思い出の場に～「宇治おもちゃ箱」の取組み～ 令和4年度会員募集協力団体・事業所の紹介／寄附のお礼</p> <p>② 3月末まで福祉委員募集強化中! 「解決」ではなく、「寄り添う」ということ～青年期以降の発達障がい親の会「オオの会 京都(side by side)」の取組み～ うじピョンの「地元に出かけよう」(催し物紹介) Hot!ふれあいサロン事業助成金募集／赤い羽根コラボ助成金募集／寄附のお礼</p>
実施して	<p>当会の事業広報と同時に、各種団体活動の情報集約と発信など、社会福祉協議会の担 う役割を意識しながら発行しています。令和5年度の3月15日号より、従来のタブロイド 判からA4判へと紙面の変更を行いました。発行からわずか2週間ほどで、記事が掲載さ れた当事者団体は SNS のグループ登録人数が約 1.5 倍となり、手に取りやすく、保管し やすいサイズへと変更した効果を感じています。今後も、宇治市内に全戸配布している広 報誌としての強みを活かしながら、市民の地域福祉推進・ボランティア活動振興への関 心を高められるよう努めていきます。</p>

(ホームページの刷新による情報発信の強化)

実施日	令和6年3月4日(月)
目 的	当会事業の周知およびアクセシビリティの向上、セキュリティの強化
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすいホームページ作りのためのページ構成の変更 ・文字サイズ変更可能システム導入によるアクセシビリティの向上 ・ホームページ通信環境のセキュリティの強化
実施して	<p>刷新後、備品の貸出について、ホームページを見て連絡したと問い合わせを受けることが あり、多くの人に情報が届いていることがわかりました。今後も随時更新し、最新情報を発 信できるよう努めていきます。</p>

(月イチうじピョンの〇〇な話の掲載)

実施日	毎月末(不定期)
目的	当会の認知度の向上および、市民に地域福祉・ボランティア活動を伝える。 職員の「伝える力」の資質向上
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治市共同募金委員会で、赤い羽根共同募金を財源にした助成金を募集しています ・「聴きあう」を大切に ・心と身体をリフレッシュ ・共感からはじまる地域共生社会 ・「ふだんのくらし」に戻るために～綾部における災害ボランティアの現場から～ ・支え合いの仕組みが地域をつくる ・住んでいる人、一人ひとりが主役となる地域福祉 ・「地域福祉活動って何？」 ・今、私たちにできることを～令和6年能登半島地震災害義援金にご協力ください～ ・「宇治」から始まるゆるやかなつながり ・声を上げる勇気 ・「安心・安全に暮らせる町ってなんだろう？」

4. 人材育成の取組み **宇治社協**

目 標／社協役職員としての資質向上を図ります。

効率かつ効果的な福祉実践への専門性の強化を図ります。

取組み／役員・職員研修の実施

各種研修会の情報提供と参加調整

令和5年度は、職員研修で新聞を活用したワークを通じて「人権学習」を行いました。

【職員全体研修】

日 時	令和5年6月28日(水) 18:00~20:00
目的	人権尊重をしっかりと考えられる職員を育成する。研修の中で、排除しない地域づくりを目指すとき、自身のものの見方の傾向に気づく。職員ひとりひとりもいろいろな考え方を持ったため、自身も他者も排除しない関係をめざす。
内容	新聞から『喜怒哀楽』を探そう～対話と気づきで学ぶ「ふだんのくらしをしあわせに」を考える～ 講師：京都新聞社メディア局 読者交流センター長 石崎立矢氏
実施して	新聞を活用するワークは、地域活動などにも応用できると考え、採用しました。技法については、採用されるには至りませんでした。ワークを通じて職員の普段の関心ごとや、感じていることを知る機会になりました。



職員研修の様子

【自主研修制度の活用】

自主研修制度（業務、資質向上に資する研修で、業務参加でなく自主的に参加する際の研修制度として、参加費の補助（年間1人当たり2万円まで）をする制度）の活用は、1名でした。参加費不要の研修もあり、本制度を活用せずとも研修参加となるものもあります。改めて周知徹底し、自己研鑽として活用できるように努めます。

【そのほかの研修について】

京都府福祉人材研修センターからの案内による、キャリアアップ研修は、新規採用職員を中心に受講しています。そのほか、テーマ研修への参加も、10年以上の経験年数のある職員等が参加し、当会の組織強化を図りました。新規採用職員は、宇治市の行政の研修、福祉こども部と健康長寿部との合同研修などにも参加し、宇治市の地域福祉の推進に役立つ知識の学びの場を設定しました。

また、全国社会福祉協議会中央福祉学院の「会計実務講座」にも2名の職員を受講させました。1名は体調不良のため、令和6年度の継続受講をすることで、講座の修了を目指します。全国社会福祉協議会の「社会福祉協議会活動全国会議」や生活福祉資金の関連の会議、研修にも参加し、現在の社会福祉の動向を学ぶように努めました。

そのほか、当会では、実習生の受入れて行う各事業担当による説明の時間を、職員にも開放し、自身の担当業務以外のことにも目を向けていただく機会を設けています。令和4年度から、その実習生の説明の時間の中に、当事者組織からの声を聴く機会を設けており、令和4年度職員研修でお世話になった、平安断酒会大久保支部の猪田喜隆氏と一般社団法人ひとひらの田辺暢也さんにお越しいただいています。その時間には、新規採用職員も参加させていただきました。

役員に対する研修は、独自では実施できませんでしたが、社会福祉法人経営者協議会・京都府福祉人材研修センター・京都府市町村社協連合会主催の「役職員セミナー」に参加し、理事と事務局で参加しました。

いずれの研修も、社会福祉ならびに組織運営において必要な研修であります。新型コロナウイルスの第5類移行後、対面での参加も増えており、令和6年度以降も、研修参加等を積極的に行い、研鑽に努めます。

5. 宇治福祉まつり検討委員会の開催

宇治
社協

目 標／地域福祉の推進を図る取組みとしての福祉まつりのあり方を検討します。

取組み／宇治福祉まつりの意義や今後のあり方についての継続協議

令和3年度の会合で、令和5年度以降形を変えて取り組むことができると確認されていましたが、会合が持たず、結論が出ていません。特に、令和5年度は令和6年度以降の宇治市総合福祉会館の改修工事に伴う調整があったことや、模擬店等の開設届等の手続きなどからも従来通りのあり方を目指すことが難しくなっており、催しの形態変更の協議が必要と感じています。

6. 宇治市総合福祉会館の管理運営

補助
委託

目 標／地域福祉活動の拠点として市民に活用してもらいやすい施設運営を行います。

取組み／宇治市総合福祉会館の管理

老人福祉センターの運営（入浴施設等の利用管理）

利用者アンケートの実施

新型コロナウイルス感染症の第5類移行により、会館利用も通常となりました。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者に手洗い及び消毒については引き続きお願いしています。また、職員に対しては継続してマスクの着用を推奨しています。

施設面では、部屋番号を大きくし見やすくしました。階段前にはお部屋案内図を設置しました。

(総合福祉会館団体利用状況)

(単位:名)

	会館 日数	1階利用計		2階利用計		3階利用計		合計	
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
令和3年度	220	400	1,662	1,867	20,055	1,256	15,078	3,523	36,795
令和4年度	294	553	2,561	2,687	31,204	1,966	22,115	5,206	55,880
令和5年度	295	521	2,420	2,643	31,623	1,948	23,867	5,112	57,910

※1階:身体障害者福祉センター、2階:老人福祉センター、3階:福祉センター

(老人福祉センター個人利用人数)

(単位:名)

	男性	女性	合計
令和3年度	2,562	1,562	4,124
令和4年度	4,169	2,951	7,120
令和5年度	3,565	2,726	6,291

(浴室利用者数)

(単位:名)

	男性	女性	合計
令和3年度	2,130	1,545	3,675
令和4年度	3,301	2,939	6,240
令和5年度	3,126	2,722	5,848

7. 事務局の動き

(1) 当会の職員の体制について

令和5年4月1日の職員状況(単位:名)

	正規職員	一般嘱託	短時間勤務
人数	10	13(3)	8
内 社会福祉士有資格者	4	4	1

令和6年3月31日の職員状況(単位:名)

	正規職員	一般嘱託	短時間勤務
人数	11	13(3)	9
内 社会福祉士有資格者	4	5	2

※()内は無期雇用申出者

社会福祉士は、令和4年度に社会福祉士を受験した一般嘱託職員が合格し、1名増えました。また、新たに社会福祉士取得に取り組むとして、申し出があったのは1名で、現在2名の職員が養成課程で学んでいます。

また、令和4年度から衛生委員会を設置しており、新たに第二種衛生管理者が2名増え、3名となりました。

(2) 職員の採用について

特例貸付フォローアップの取組み規模が明らかになり、事務局体制を整備するべく、職員の職務担当の変更や職員募集を行うことになりました。一般嘱託職員の募集を行いました。人材の確保が難しくなっている社会情勢の中で応募がありませんでした。

そこで、正規職員募集に切替えて募集を行うこととしました。これまで職員採用試験では、組織構成を考え、応募者の年齢を35歳前後までとして、筆記試験（一般教養、専門知識含む）と作文試験、面接試験を行ってきました。今回（令和6年2月23日）に実施した正規職員採用試験では、人材難の動向や年度末での募集となることもあり、作文試験と面接試験、年齢上限を定年までとする内容で募集しました。

その結果、応募者19名、受験者14名となり、結果、1名の合格、1名の次点者を決定し、令和6年4月1日から1名を採用しました。

(3) 職員の休暇取得状況について

令和5年度の全職員の有給休暇の取得率は69.9%です。

（有給休暇取得日数 346 日 ÷ 有給休暇付与日数※繰越を除く 495 日）

特別休暇、休業の取得状況は以下のとおりです。

休暇種別	取得人数
服喪休暇	2名
生理休暇	3名
妊婦の通院休暇	1名
配偶者の出産休暇	1名
ファミリーサポート休暇	4名
短期介護休暇	1名
ボランティア休暇	1名
傷病休暇（感染症関連）	7名
育児休業	1名

(4) 令和5年度の事務局の事故等の対応について

事故、ミスが起こった場合、速やかに上長への報告のほか、報告書の回覧や朝礼等を活用して局内での共有等を図っています。

利用料や福祉活動費に関する事案、車両に関する事故は、当会の信頼関係にも影響を及ぼすことから、注意喚起と事故後の対応（警察への通報や事故報告）の徹底を図りました。また、活動中での事故、けがの発生のほか、宇治市総合福祉会館内での事故、けがの発生もありました。設備面の点検のほか、活動中の事故等においては見守り等も事業担当で確認を促しています。

（令和5年度内の事故・ミス等の件数）

区分	件数	主な事業
事故・ミス	18	地域参加型 B 型リハビリ事業、権利擁護、会館管理
苦情	3	会員募集、ふれあい福祉センター、貸付